

使用説明書

Minolta SR-7

● お買上げありがとうございます ●



ミノルタ SR-7が、今日から新らしくあなたの愛機となりました
高い格調と、高性能 CdSメーターを内蔵した世界に誇る最高級一眼レフです
各種機構を一層充実させ名実ともに王者の風格をそなえています
ご使用になる前にまずこの使用書をよくお読みくださって、カメラの特性を十分にご活用く
ださい

撮影される前に……

- 
- 1 ミノルタ SR-7 のメカニズム
3 これだけで写せます
- 5 フィルムの入れ方
- 9 シャッター速度はこうして
- 10 絞りの合わせ方
- 11 完全自動絞り
- 12 被写界深度とは
- 17 露出について
- 18 内蔵メーターの使い方
23 露出測定の方法
- 24 フィルム感度表示板
25 水銀電池について
- 27 焦点調節と構図の決め方
- 29 カメラの構え方
- 31 撮影が終ったとき
- 33 セルフタイマーの使い方
- 34 フラッシュ撮影
- 37 ミラーロックボタンの扱い方
- 39 レンズの交換はこうして
45 各種附属品について

ペンタ・ダハ・プリズム
 シャッター速度兼
 フィルム感度ダイヤル
 フィルム巻き戻しクラン
 ク兼裏ぶた開閉ノブ
 メーター指示窓
 フィルム感度調節窓
 シャッターボタン
 撮影枚数表示窓

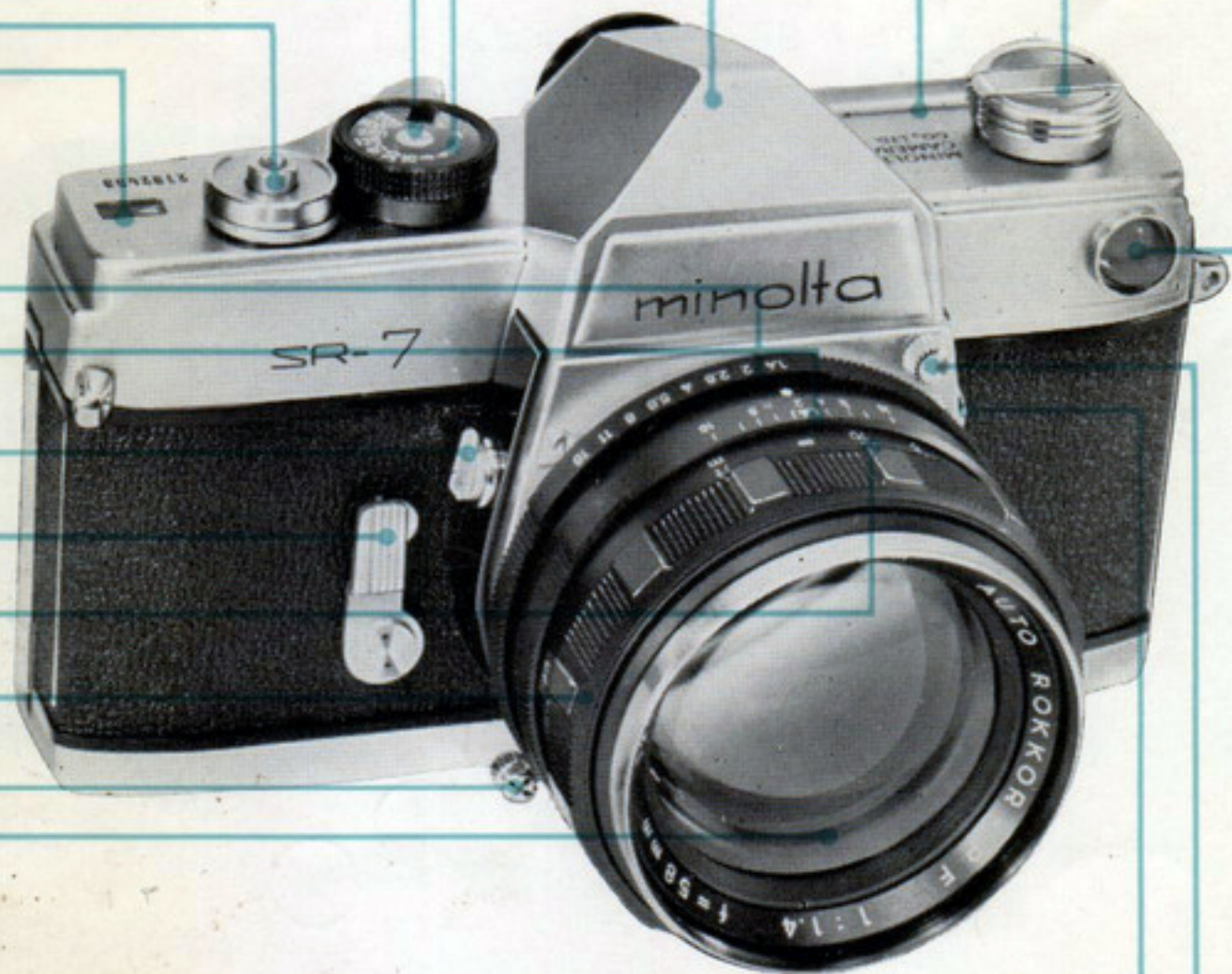
絞りリング
 被写界深度目盛

ミラーロックボタン
 セルフタイマーレバー

距離目盛
 焦点調節リング

絞りボタン
 標準レンズ

シンクローターミナル
 レンズ交換用ボタン
 露出計受光窓



フィルム 圧着板

フィルム 巻き取り軸

スプロケット

巻き上げレバー

ファインダーのぞき窓

低輝度切替ボタン

シャッター幕

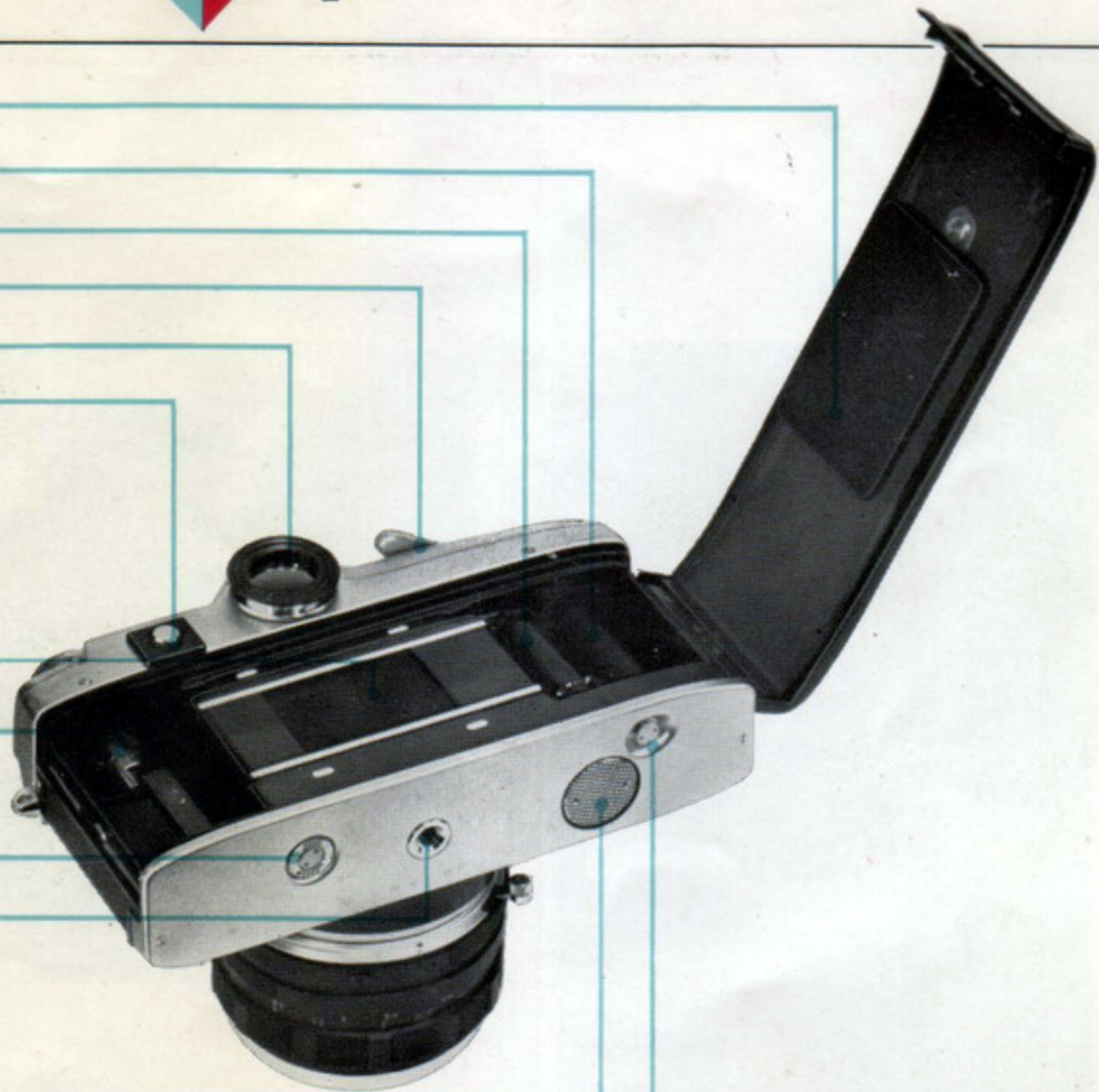
パトローネ受け軸

電池回路切替ボタン

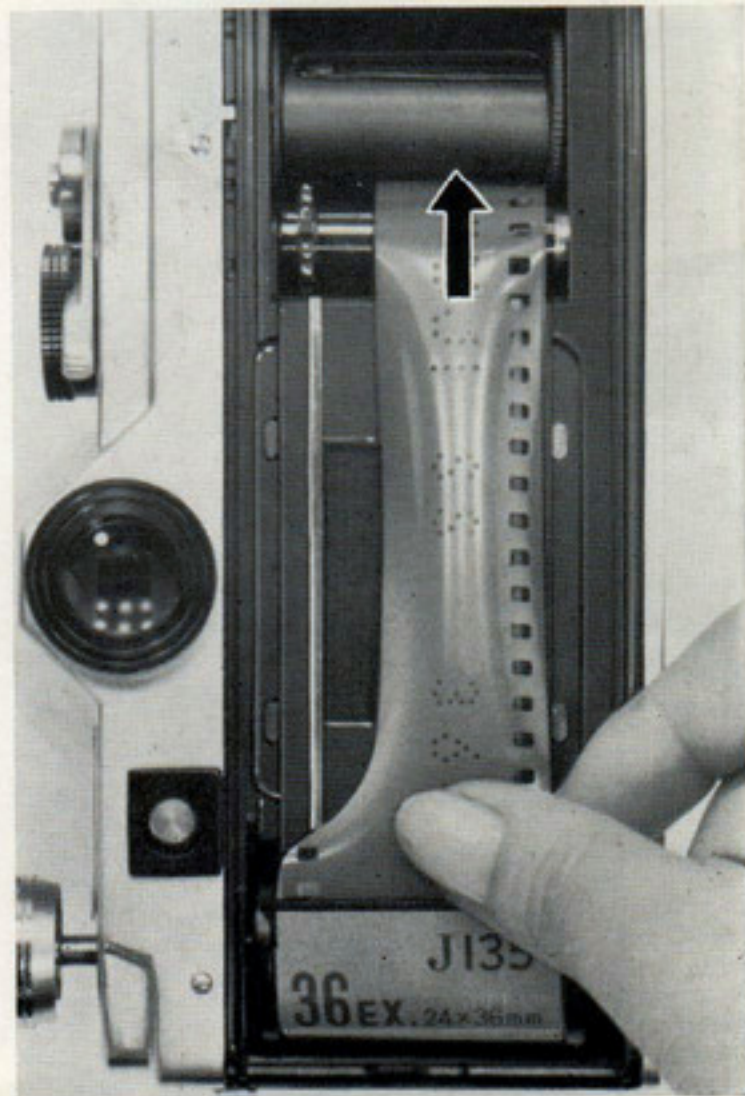
三脚ねじ穴

水銀電池底蓋

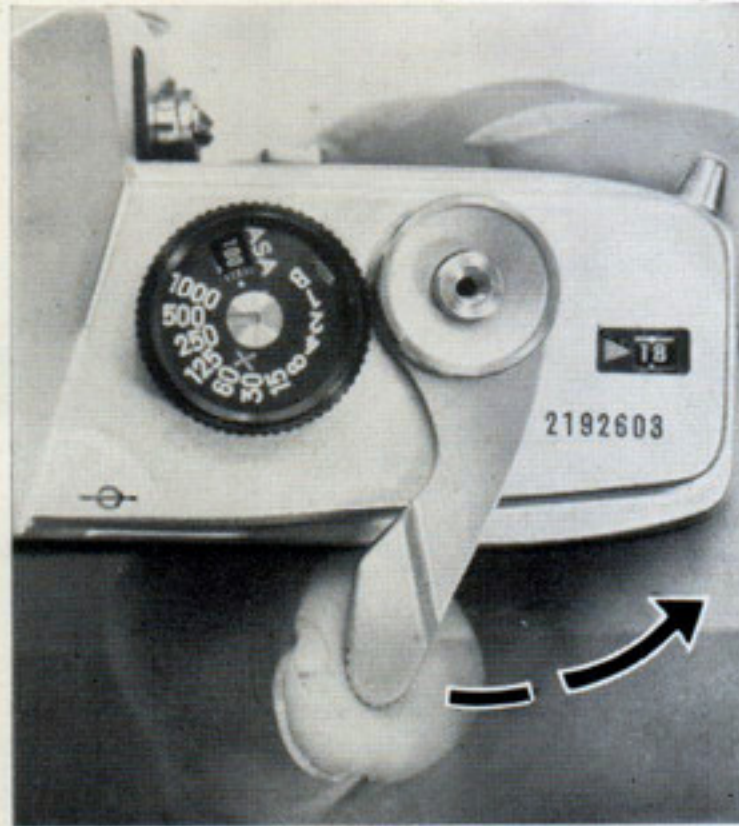
フィルム巻き戻しボタン



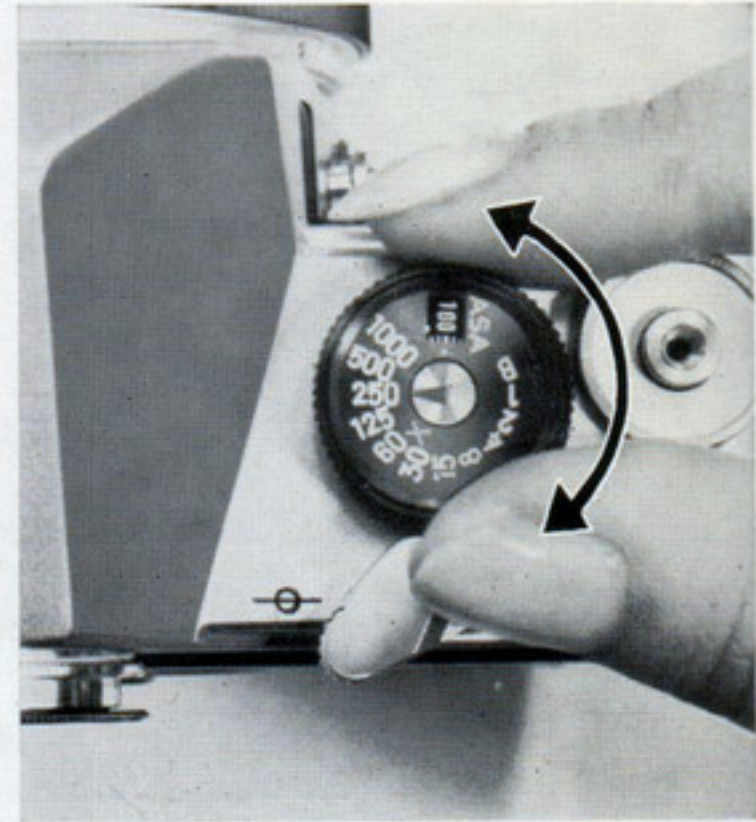
1 フィルムを入れます



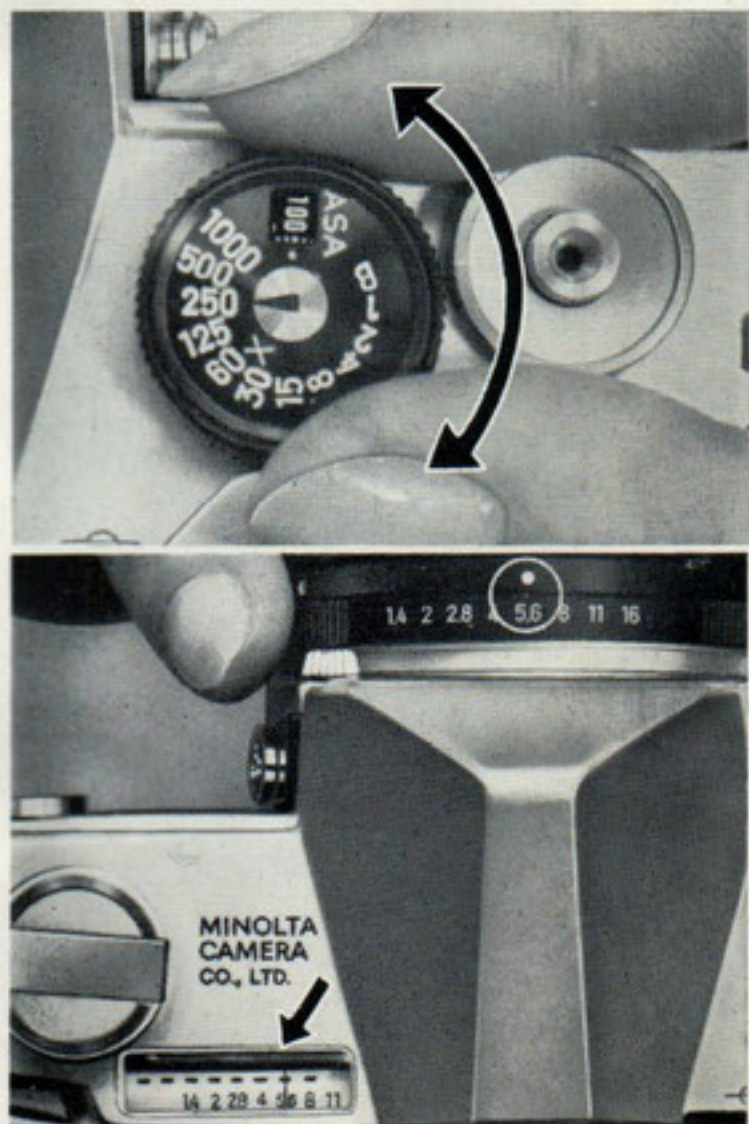
2 レバーを巻き上げます



3 フィルムの感度を合せます



- 4** シャッター速度を決めて露出を測ります



- 5** メーターの指針をよみ絞りを合わせます



- 6** ピントを合わせシャッターボタンを押します



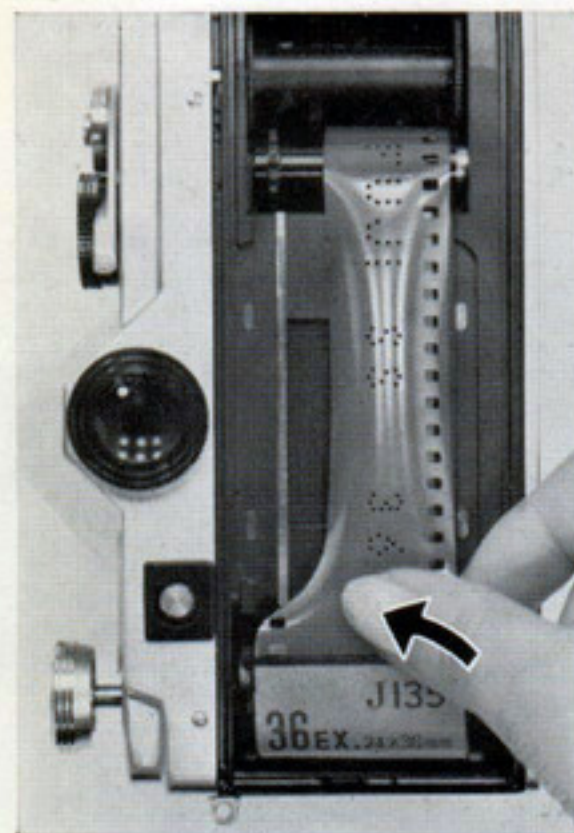
カメラ底部の水銀電池回路の切替ボタンがONになっているかどうかを確認してください



1.

裏ぶた開閉ノブ（巻き戻しノブ兼用）を一段引き出し、さらに強く少し引くと裏ぶたが開きます

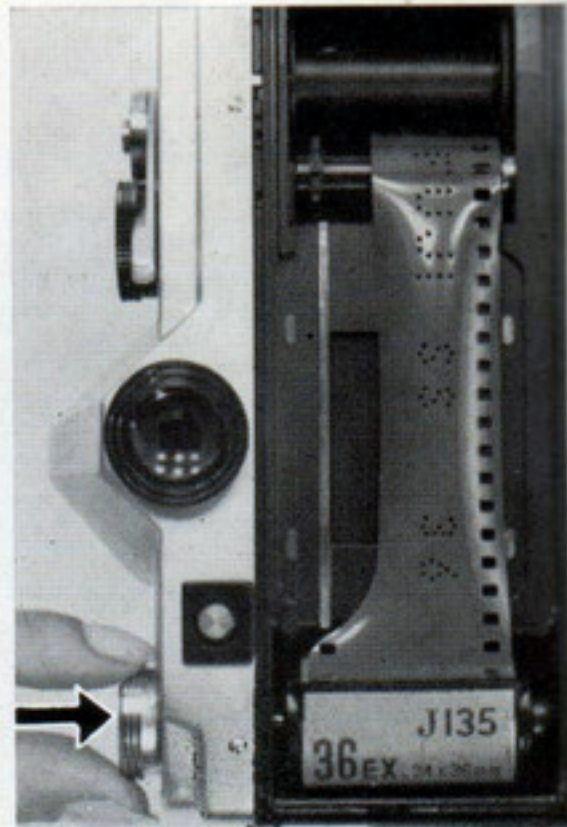
（裏ぶたが開くと撮影枚数計は自動的にスタート位置（S）に戻ります）



2.

パトローネをカメラのフィルム室に入れます

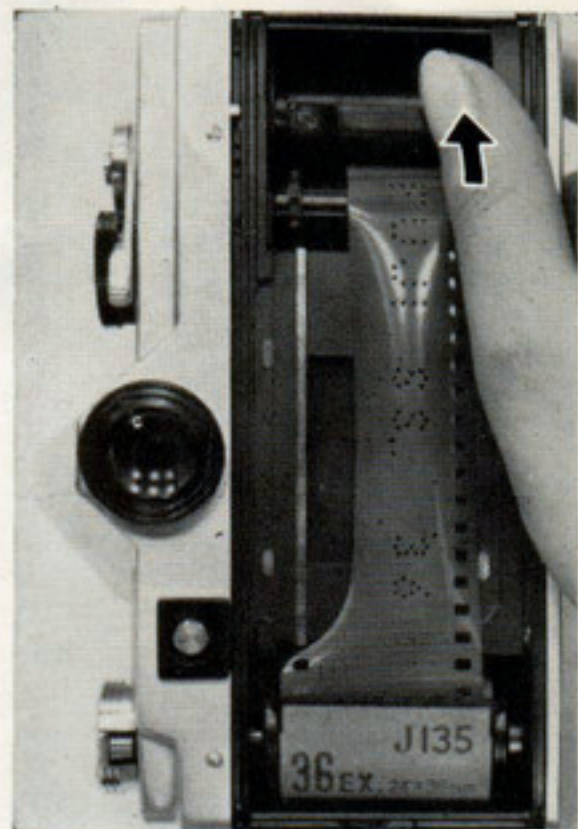
（このとき、パトローネの軸の出ている方が、カメラの底の側へくるようにし、軸の出ている方をカメラの受軸にはめるようにして先に入れます）



3.

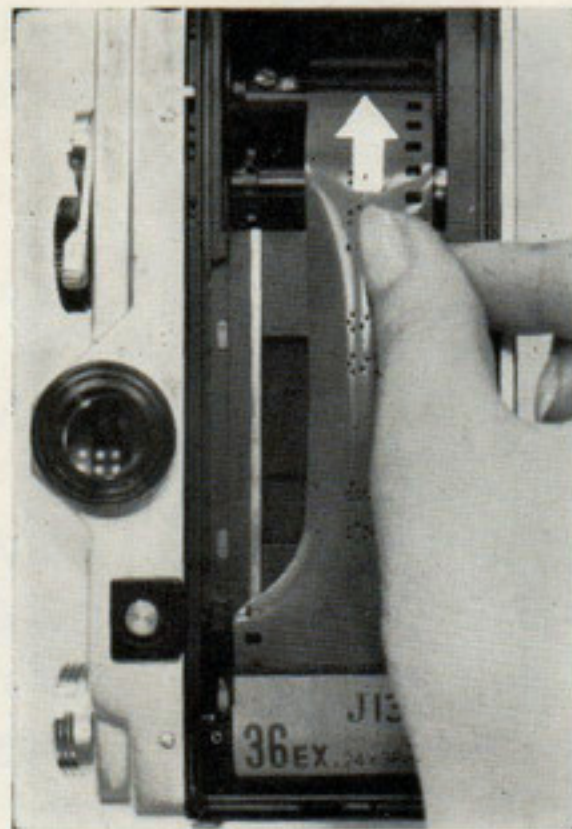
裏ぶた開閉ノブを元通りに押し込みます

（はりにくいときは、少し左右に回して完全に押し込んで下さい）



4.

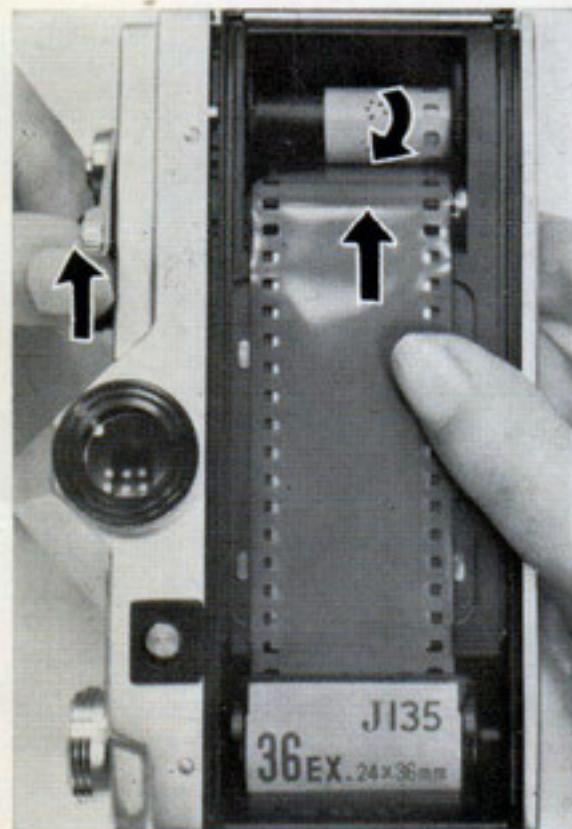
フィルム巻き取り軸の端にある歯車を指先で回してフィルムを差し込むクリップを上側に出します



5.

フィルムの先端をパトローネから少し引き出し、図のように手前側から歯車にそわせてクリップに差し込みます

(フィルムの先端がクリップから5ミリ位出たところで止め、フィルムの送り穴をスプロケットの歯にはめます)



6.

巻き上げレバーを少しずつ回してフィルムの両側の穴にスプロケットの歯がかみ込むところまでフィルムを巻取った方が安全です

(途中で巻き上げレバーが動かなくなればシャッターボタンを押せば再び動くようになります)

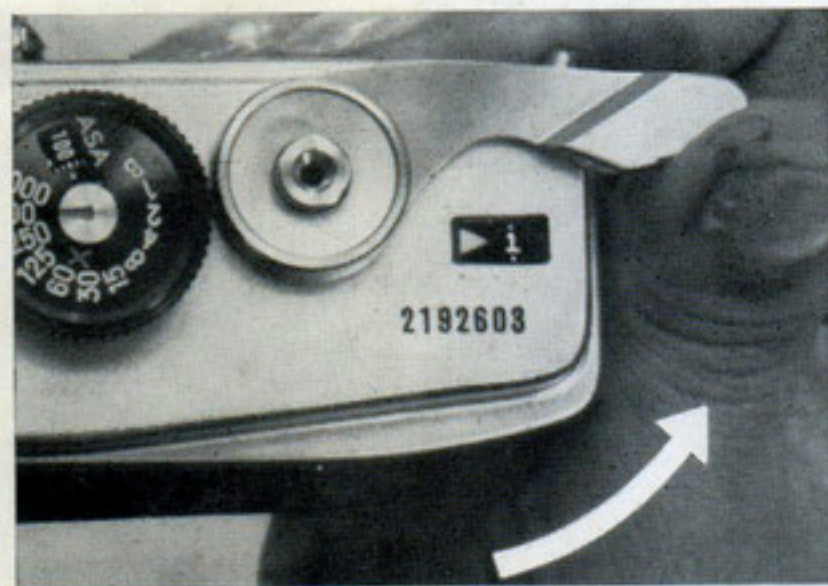
フィルムの出し入れは日陰で行ってください。
フィルムを入れるときシャッター幕にさわらないようご注意ください



7.

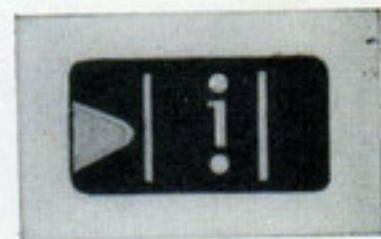
フィルムが平行に巻き取られていることを確かめてから裏ぶたをパチンとしめます

パトローネの中のフィルムがゆるんでいることがありますから、撮影を始める前に巻き戻し軸を軽く矢印の方向に少し回して、フィルムのゆるみを締めておきましょう



8.

巻き上げレバーを止まるところまで回してシャッターボタンを押します。さらにもう一度巻き上げレバーを止まるところまで回します。これでフィルムが撮影位置に送られました。同時にシャッターもセットされています



9.

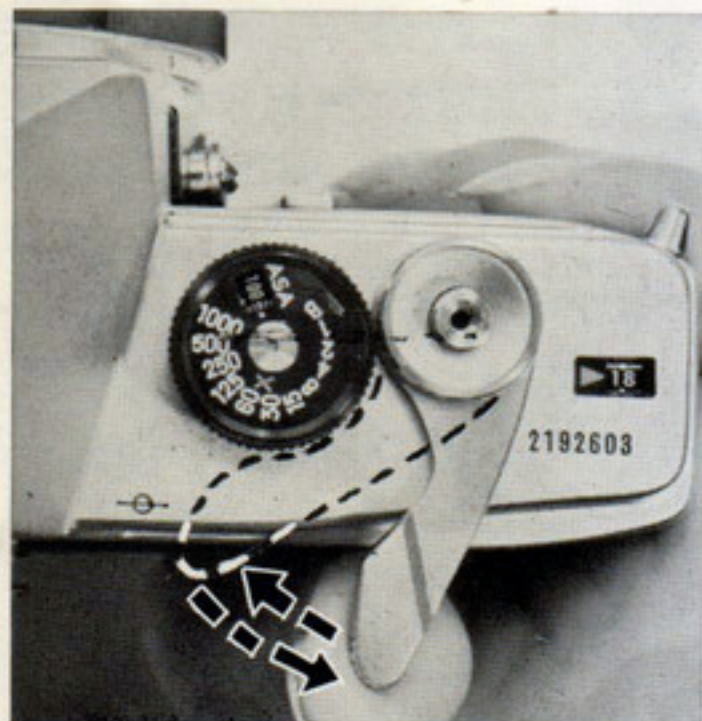
撮影枚数表示窓をごらんください。赤い▲印が1を指しています。これでシャッターを押せば1枚目の撮影ができるわけです。以後フィルムを巻き上げると撮影枚数計は自動的に一目盛つつ進みます

巻き上げレバーを止まるころまで完全に回さないでシャッターボタンは動きません

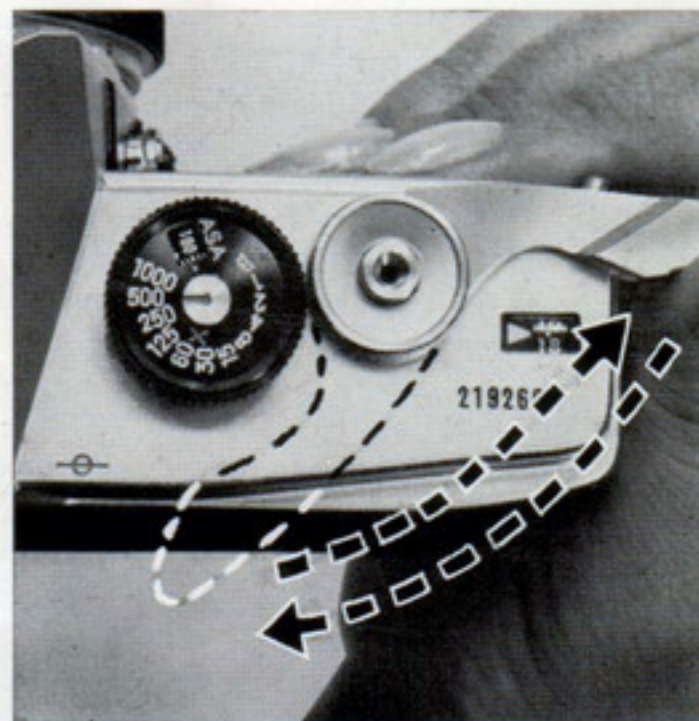
1秒、 $\frac{1}{2}$ 秒のようなスローシャッターを切ったときは、必ずシャッターの作動が終ってから、次のフィルムの巻き上げをしてください

フィルムを巻き上げた場合、内部でフィルムが正しく進行している場合には、巻き戻しノブが矢印と反対の方向に回ります。従ってフィルムを巻き上げるときは巻き戻しノブに触れないようにしてください

(但し、最初の内、パトローネ内のフィルムがゆるんでいる場合はしばらくの間、回らないことがあります)

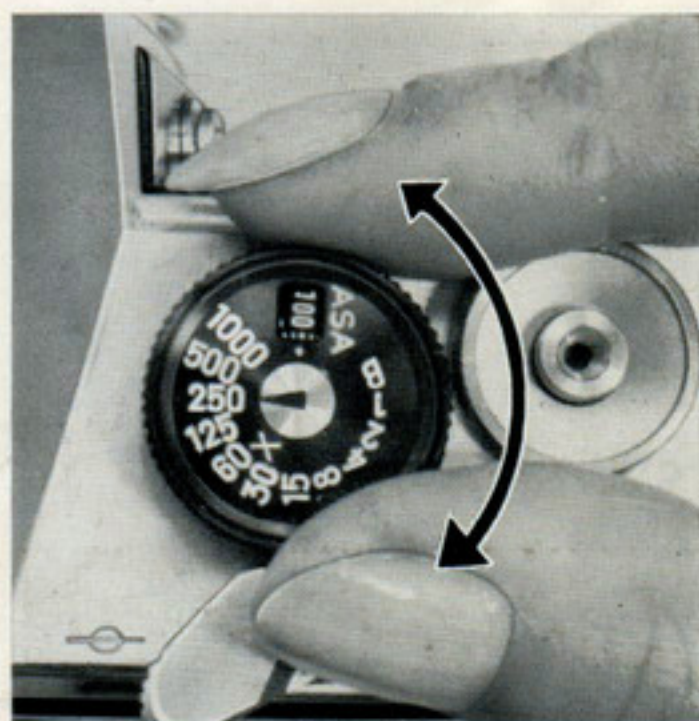


巻き上げレバーは止まるころまで完全に回してください。一度に巻き上げても、または数回に分けて止まるころまで小さく巻き上げてよいのです



巻き上げレバーを止るところまで回すと

- 1 フィルムが一コマ巻き上げられ
- 2 撮影枚数計が一目盛進み
- 3 シャッターがセットされ
- 4 自動絞り機構の準備が完了します



シャッター速度ダイヤルは持ち上げずにそのまま回して、希望する速度目盛をダイヤル中央の▲マークに合わせます。ダイヤルは左右どちらく回しても結構です。シャッター速度の変更はフィルムを巻き上げる前後どちらでもさしつかえありません

各シャッター速度目盛の間は使わないでください

ミノルタ SR のシャッターは不回転一軸速度ダイヤル式になっていますから、低速から高速まで一操作で速度の調節ができ、しかも撮影のときダイヤルに指が触れて速度が狂うようなことはありません

シャッター速度のダイヤルには B と 1~1000 までの数字が刻まれています
1, 2, 4, 8, 16……1000 の数字はそれぞれ 1 秒, 1/2 秒, 1/4 秒, 1/8 秒, 1/15 秒……1/1000 秒のシャッター速度を表わしています

B はバルブといって、この目盛に合せておくとシャッターボタンを押している間中、シャッターが開いています。これは 2 秒以上の長い露出をするときに使います

赤字の X は X 接点といってスピードライト (ストロボ) を使って撮影するときに合わせる目盛で約 1/60 秒になります
詳しくは 34 ページをごらんください

絞りリングには1.4から16までの絞り目盛（F値）が白字で刻まれています

絞りリングの希望する絞り数字（白字）を、前部の白点に合わせてカチリと止ります

F1.4からF16まで各目盛間の中間にセットしますと、中間絞りの使用も可能です。絞りは数字が大きくなるほど、レンズを通過してフィルム面にとどく光の量が少なくなります。その割合は右上図のようにF1.4から順次F16まで次第に光量が $\frac{1}{2}$ に減っていきます。なお、絞りの調節はフィルム巻き上げの前後いずれでもかまいません

（このカメラは露出計が内蔵されていますから絞りの調節はメーターの指針によって合わせてください。露出計の使い方18ページを参照）

絞り	1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	16
光量	2	1	1/2	1/4	1/8	1/16	1/32	1/64

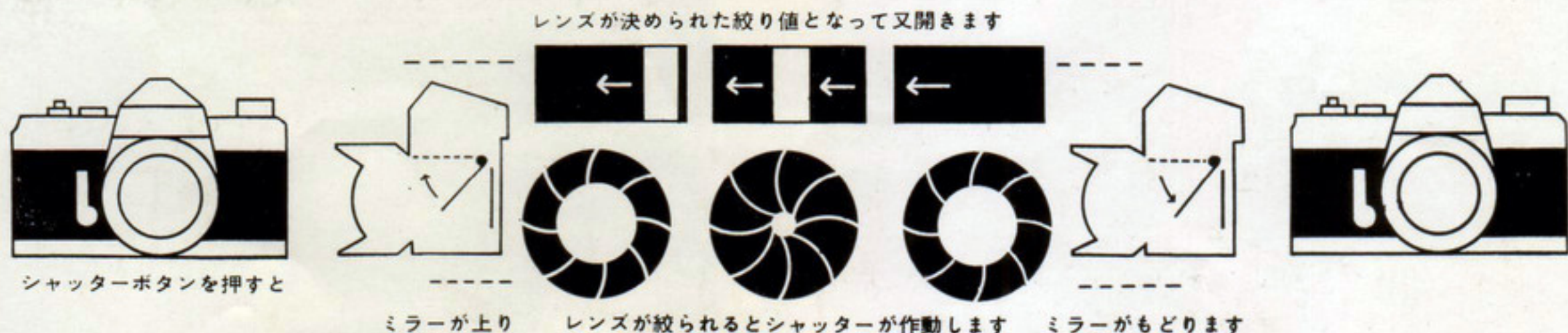


ミノルタ SR の特長は、完全自動絞り機構にあります
この自動機構は巧妙な設計によって、常に絞りが自動的に開放となっているので明快な視野で構図の決定と焦点調節が迅速にできます

すなわちシャッターボタンを押せばシャッターが切れる瞬間に、前もって選んでおいた絞り値まで自動的に絞られシャッター膜が走り去ると同時にもとの開放になります
ですからファインダーは常に開放の明るさを保ち暗いところでも充分ピント合わせが可能です。従って、スナップの

ときなど、一々絞りを開放にしたり、絞ったりする手数ははぶけ、シャッターチャンスをつかえるのに非常に便利です
しかもこの完全自動絞り機構は、標準レンズの他に各種オートロック交換レンズに対しても同様に働き、フィルム巻き上げ前後いつレンズ交換をしても、交換レンズの絞りは常に自動的に開放になっています

シャッターボタンを押すと一瞬の間にこれだけの作動をします





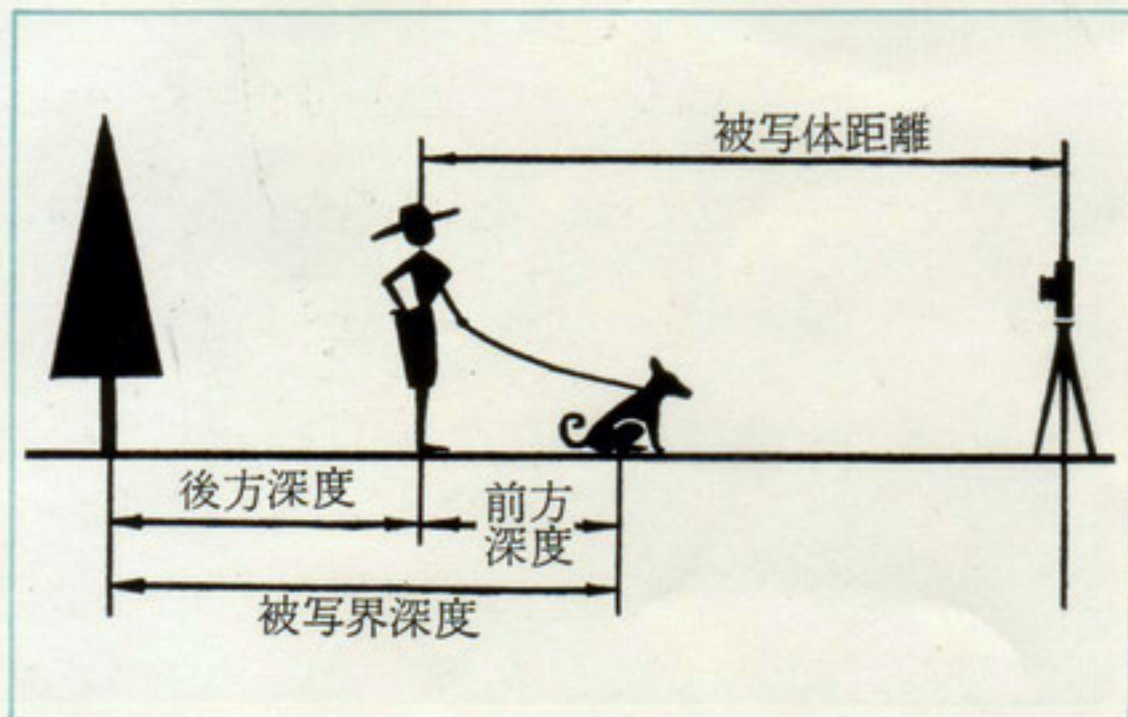
レンズというものは、ある距離にピントを合わせたとき、その距離にあるものが鮮鋭に写るだけではなく、その前後にも実用上十分鮮鋭に写る範囲があります。これをレンズの被写界深度といいます。

上の写真はこの関係を示す作例で、左側はレンズを開放の状態 (F 1.4) にした時であり、右側は小絞り (F 16)



にしたときのものです。

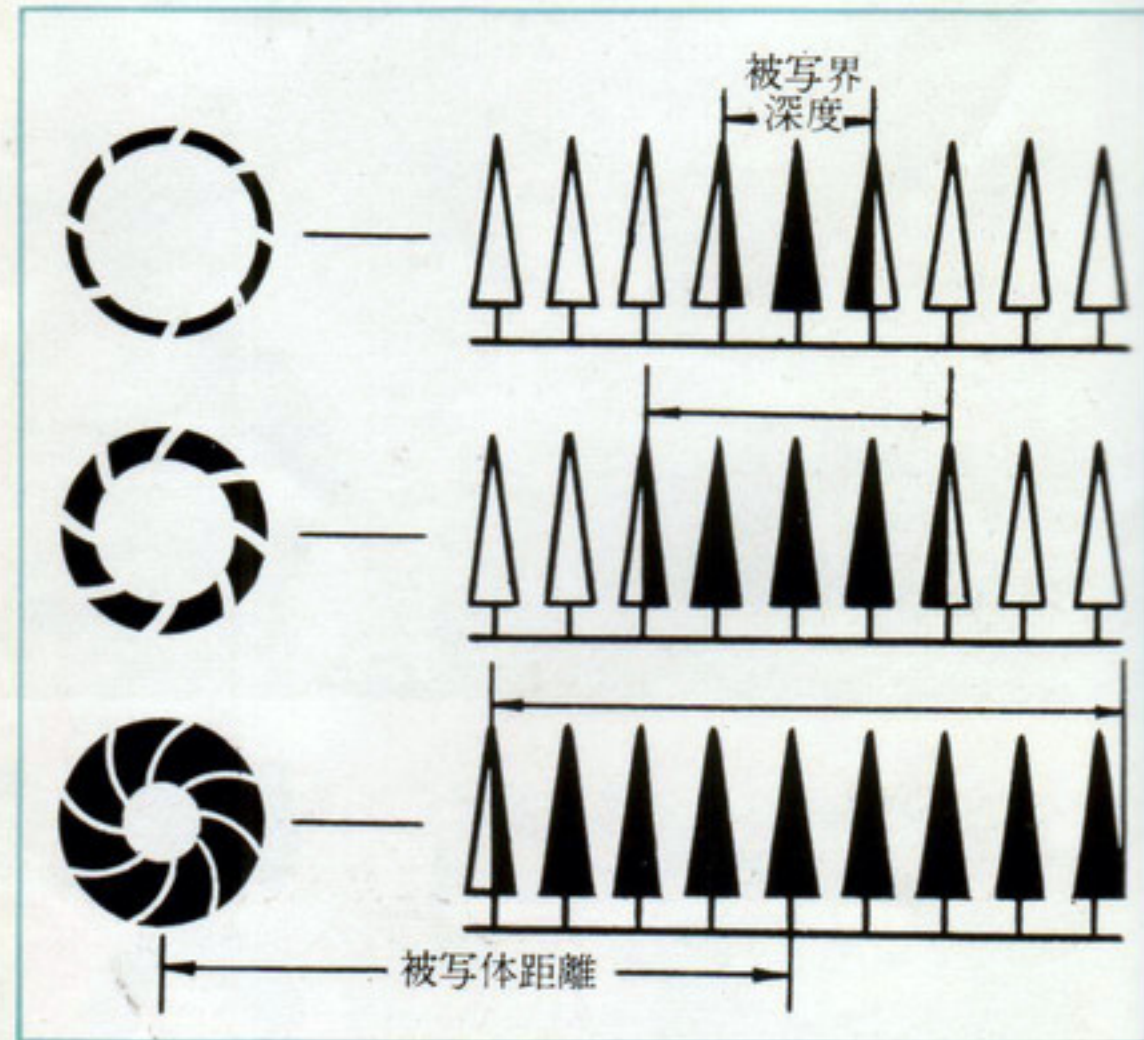
ごらんのように小絞りの方が被写界深度が深いのです。



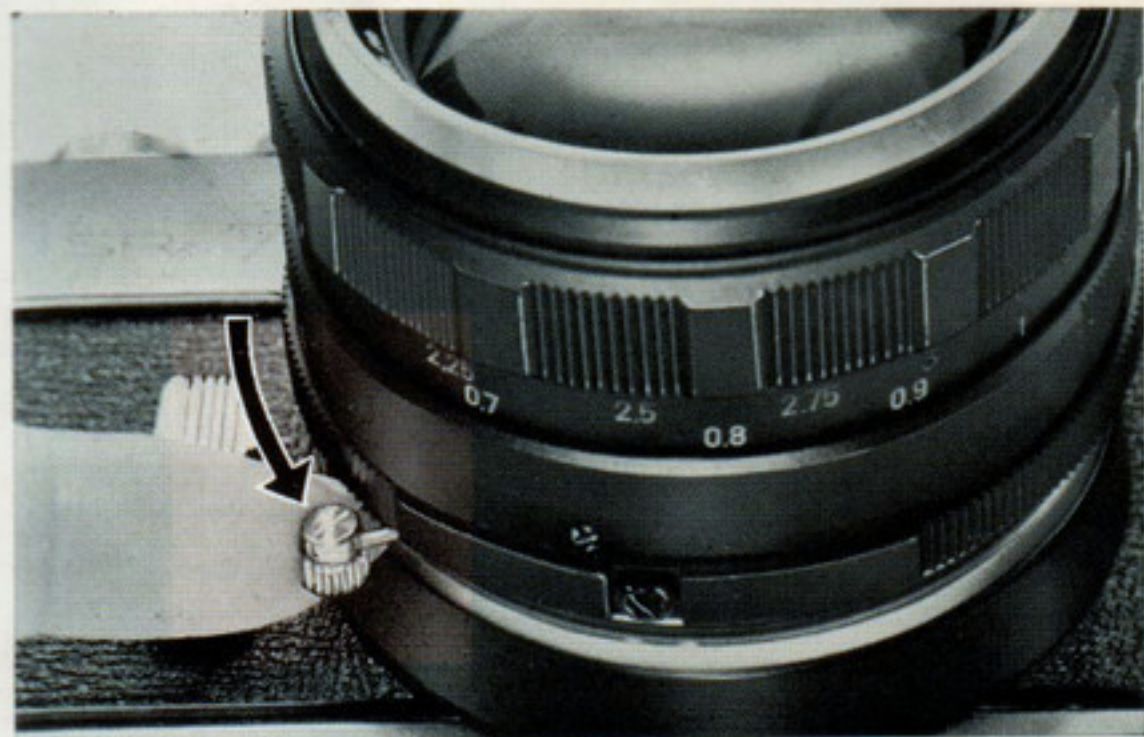
同じレンズでは

1. 絞りを小さく絞るほど被写界深度は深くなります
 2. 近距離よりも遠距離にピントを合わせたときの方が深くなります
 3. 焦点を合わせた被写体の前より後の方が深くなります
- なお、焦点距離の短いレンズほど深くなります

被写界深度は、絞の変化によって自由に深くしたり浅くしたりすることができるため、近距離にいる人物とともに遠くの背景も一様に鮮鋭に写したい場合や、逆にわずらわし



い背景を適当にボカして、人物だけを鮮鋭に写して迫力を強調する場合など、背景および前景の鮮鋭度を適当に調節して、写す目的や画面効果をあげるのに利用します



このレンズは、完全自動絞り付で撮影の前後常に絞りが自動的に開放となっています

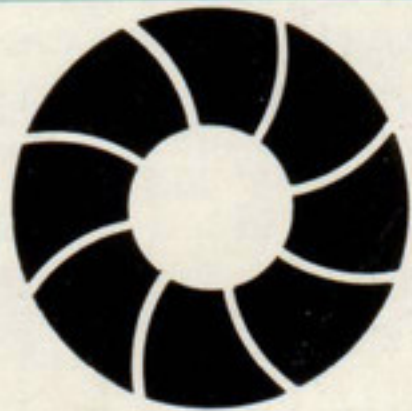
そこで撮影前、絞り効果を検討するとき絞りボタンを使います

絞りの目的は、露光量とピントの合う範囲（焦点深度の項参照）を調節する働きをします

ファインダーを覗き、絞りボタンを写真の矢印方向に止るまで押し下げますと、使用する絞り値でのピントの合う奥行きや、背景のボケ具合がよく解ります。これを利用すると撮影にどの絞りがもっとも作画意図に適するかを決めるにも役立ちます



絞り開放の時



絞りボタンを
押し上げた時

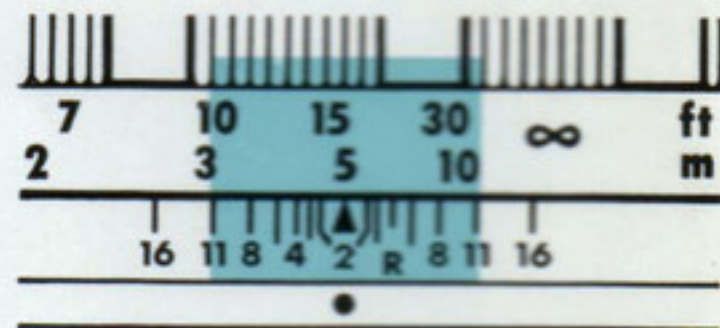


ミノルタ SR は、絞りボタンを押し下げて絞りを合わせると、ファインダーを通して各距離における被写界深度（ピントの合っている奥行）の程度がよくわかります

また、ピントの合う奥行きの限界距離を知るには、レンズ鏡胴の距離目盛のそばに刻んである被写界深度目盛を利用すると簡単にわかります



被写界深度目盛の中央にある▲印は焦点を合わせた被写体までの距離を示します。そしてこの▲印の両側にある同じ絞り数字が、各絞りの場合の被写界深度、つまり鮮鋭に写す範囲を示しているのです。上図をごらん下さい。▲印が5を示しています。つまり被写体までの距離が5mということです。

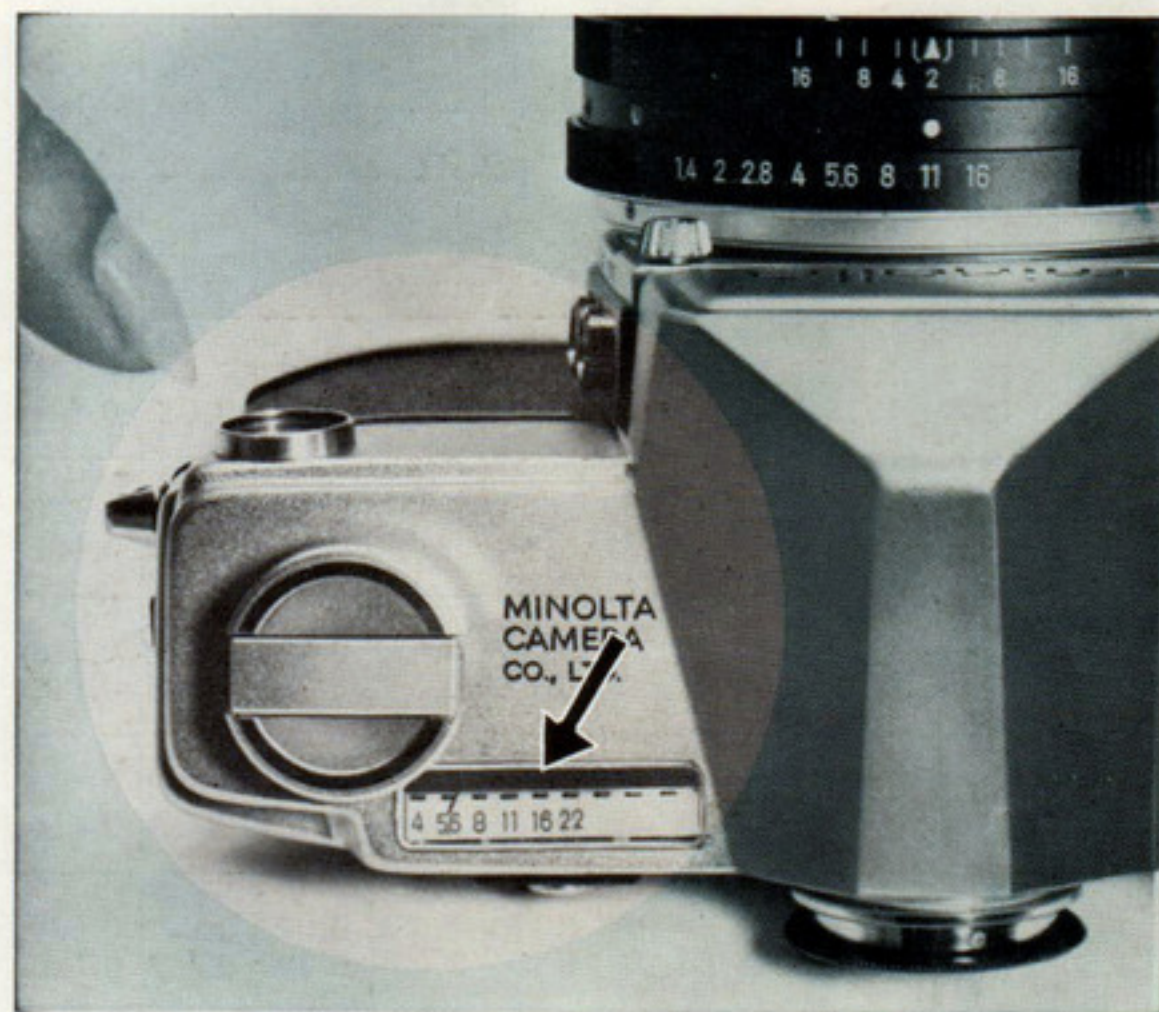


この場合、仮に絞りをf11で写すとすれば、被写界深度は▲印の左右の11の目盛が示す距離目盛の範囲、つまり約3mから約10mの間で、この範囲にあるものはみな鮮鋭に写るわけです

絞るほど被写界深度が深くなることも上図でおわかりでしょう

オートロツコール PF 58mm F 1.4 の被写界深度表

撮影距離 F.No.	∞ 近遠	20 近遠	10 近遠	7 近遠	5 近遠	4 近遠	3 近遠	2.5 近遠	2 近遠	1.7 近遠	1.5 近遠	1.3 近遠	1.2 近遠	1.1 近遠	1.0 近遠	0.9 近遠	0.8 近遠	0.7 近遠	0.65 近遠	0.6 近遠
1.4	74.22 ∞	15.78 27.31	8.83 11.53	6.41 7.71	4.69 5.35	3.80 4.22	2.89 3.12	2.42 2.58	1.95 2.05	1.67 1.74	1.47 1.53	1.28 1.32	1.18 1.22	1.09 1.11	0.989 1.01	0.891 0.909	0.793 0.807	0.695 0.705	0.646 0.654	0.597 0.604
2	53.82 ∞	14.61 31.71	8.45 12.24	6.21 8.02	4.59 5.50	3.73 4.31	2.85 3.17	2.40 2.61	1.93 2.07	1.65 1.75	1.46 1.54	1.27 1.33	1.18 1.22	1.08 1.12	0.985 1.02	0.888 0.913	0.791 0.810	0.693 0.707	0.644 0.656	0.595 0.605
2.8	38.07 ∞	13.15 41.88	7.95 13.50	5.93 8.54	4.44 5.73	3.63 4.45	2.79 3.24	2.36 2.66	1.91 2.10	1.63 1.77	1.45 1.56	1.26 1.34	1.17 1.23	1.07 1.13	0.978 1.02	0.883 0.918	0.787 0.814	0.690 0.710	0.642 0.658	0.593 0.607
4	26.94 ∞	11.52 76.71	7.32 15.79	5.58 9.39	4.24 6.10	3.50 4.67	2.71 3.36	2.30 2.74	1.87 2.15	1.61 1.80	1.43 1.58	1.25 1.36	1.16 1.25	1.06 1.14	0.970 1.03	0.876 0.926	0.782 0.820	0.686 0.714	0.639 0.662	0.590 0.610
5.6	19.06 ∞	9.80 ∞	6.60 20.79	5.15 10.95	3.99 6.71	3.33 5.02	2.61 3.53	2.23 2.85	1.82 2.22	1.57 1.85	1.40 1.61	1.23 1.38	1.14 1.27	1.05 1.16	0.958 1.05	0.867 0.936	0.774 0.828	0.681 0.720	0.634 0.667	0.587 0.614
8	13.49 ∞	8.10 ∞	5.78 37.69	4.65 14.31	3.68 7.83	3.11 5.61	2.48 3.81	2.13 3.03	1.76 2.32	1.53 1.92	1.37 1.67	1.20 1.42	1.11 1.30	1.03 1.18	0.942 1.07	0.853 0.953	0.764 0.840	0.673 0.729	0.627 0.675	0.581 0.620
11	9.56 ∞	6.50 ∞	4.93 ∞	4.08 25.30	3.32 10.24	2.85 6.74	2.31 4.29	2.01 3.32	1.68 2.48	1.46 2.03	1.32 1.75	1.16 1.48	1.08 1.35	1.00 1.22	0.919 1.10	0.836 0.976	0.750 0.858	0.663 0.742	0.619 0.685	0.574 0.629
16	6.77 ∞	5.09 ∞	4.08 ∞	3.48 ∞	2.92 18.21	2.55 9.42	2.11 5.22	1.86 3.85	1.57 2.76	1.39 2.21	1.25 1.88	1.11 1.57	1.04 1.42	0.966 1.28	0.890 1.14	0.812 1.01	0.731 0.885	0.649 0.761	0.606 0.701	0.564 0.642



露出は大まかにいって、天候、季節、一日の内の時間、光源からの距離、フィルムの感度、その時の被写体などで決めなければならず、常に正確な露出を知ることは容易ではありませんがこのカメラには高性能な CdS を採用した露出計がカメラに内蔵され、シャッター速度に連動していますから、いつでもどこでも常に正確な露出をカメラに与えることができます。特にカラー撮影のときには威力を発揮します

■絞りとシャッター速度との関係

ミノルタ SR は下表のような絞り、シャッター速度となっており、お互いに隣りの目盛の 2 倍、 $\frac{1}{2}$ の露光量となる関係になっています。従って下表の絞りとシャッター速度との組み合わせはすべて同一露光量になります

絞 (F:)	1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	16				
シャッター速度 (秒)	$\frac{1}{1000}$	$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	1	B

このカメラには強力な CdS を採用した理想的な露出計がカメラに内蔵されシャッター速度に連動しています
メーターの作動範囲は、被写体の明るさ（輝度） $0.28 \sim 18000 \text{cd/m}^2$ の広範囲ですから 相当に暗いローソクの光りから明るい日中の戸外まですべての範囲をほとんどカバーします

メーターの作動範囲をライトバリューに換算しますと ASA 100 のフィルムで EV 1~17 に相当します

(EV1=F1.4 1 sec, EV 17=F11 $\frac{1}{1000}$ sec)

さらにメーターの受光角が従来のものより狭く、大体レンズの画角に近似していますのでとても正確な露出を与えます また ASA 6~ASA 3200までのあらゆるフィルムに連動します



まず使用するフィルム感度を合わせます

カメラのシャッター速度ダイヤルの上側に ASA 感度を合わす目盛の窓があります

シャッターダイヤルの外側を引きあげて動かしますと左右に回りますから使用するフィルム感度目盛をこの窓に合わせます（この時シャッターダイヤルの外側を少し回わしてみてもフィルム感度の目盛が窓の中で十分ミゾにはまっているかどうかをよくたしかめておきます）

露出倍数を加減するとき

フィルターを取付けたり特別な意図で露出を加減するには、使用フィルムのASA感度数をフィルターの露光倍数で割った値を、カメラのフィルム感度調節窓に合わせてください



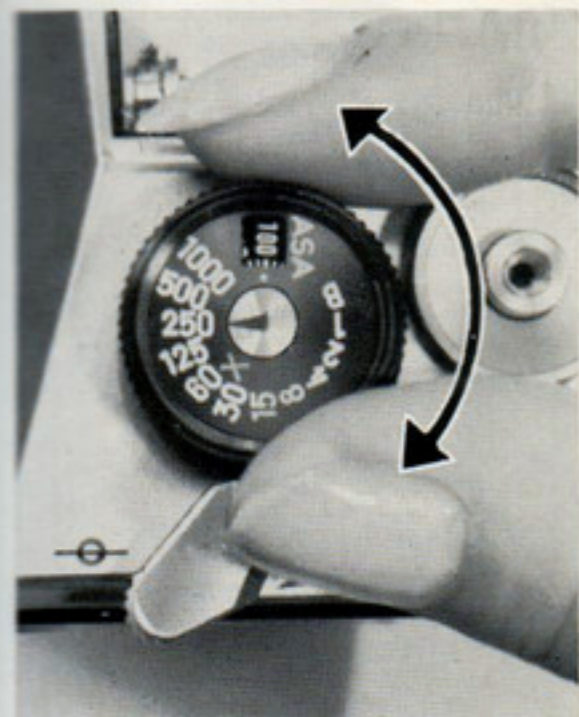
フィルムの感度表

ネ	オ	パ	ン	F	A	S	A	32
S		級	フ	ィ	ル	ム	"	50
S	S	級	フ	ィ	ル	ム	"	100
S	S	S	級	フ	ィ	ル	ム	200
さくらカラーリバーサル					A	S	A	50
さくらカラーネガティブ					"			50
オリカラーネガティブ					"			50
フジカラー N 64					"			64
フジカラー R 100					"			100

その他のフィルムは、フィルムの箱または説明書をごらんください

DIN感度のフィルムを使用するときは、フィルム感度表示板を利用します

P~24をごらんください



シャッター速度を先に決めるとき

カメラを被写体に向けシャッター速度ダイヤルを回わして希望する速度目盛に合わせます
このときメーター指針窓にそのシャッター速度に適した絞り値を指針が表わします

このメーター指針が示す絞り値をよみとりレンズの絞り値を調節すれば適正露出がえられます

一般の野外撮影でSS級のフィルムを使うときはシャッター速度を $\frac{1}{125}$ 秒にしておけば十分まにあいます
また明るい室内では $\frac{1}{30}$ 秒に動体はなるべく速いシャッター速度にしてください（作例参照）



はやい動体は $\frac{1}{500}$ 以上で



明るい室内は $\frac{1}{30}$



動体は $\frac{1}{250}$

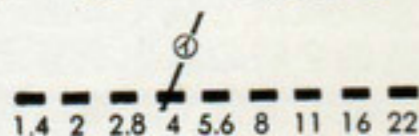
絞りを先に決めるとき

あらかじめセットしたレンズの絞り値にメーターの指針窓で合うようにシャッターダイヤルを回わしますとシャッター軸はメーターと連結していますのでそのまま自動的に露出が決まります

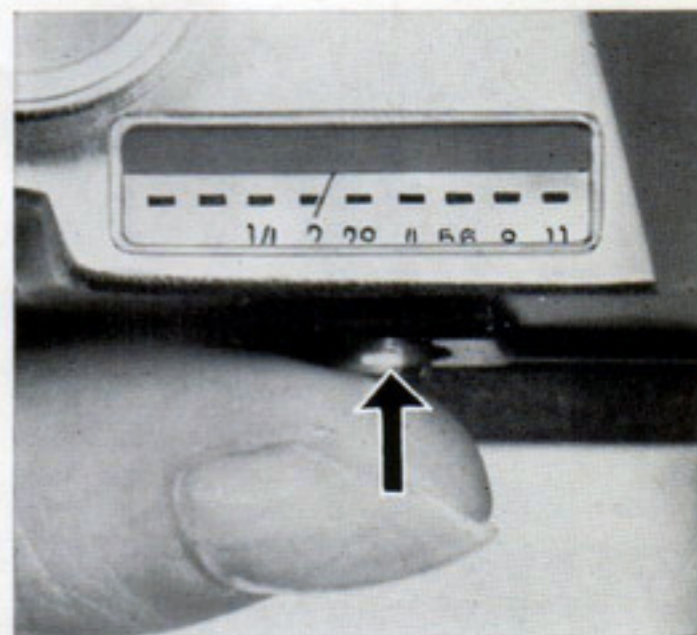
注意事項

- (1) 集合人物・建築写真のように被写界深度 (P-15) を深くして使用するとき、できるだけ小絞りにしてください
- (2) シャッター速度が $\frac{1}{30}$ 秒より遅いときは手ブレの恐れがあるので三脚をご使用ください (B目盛は2秒以上の遅いシャッターですから使わないでください)
- (3) 絞り値の読みとりは直接指針の指した絞り値ではなくガイドの点線に沿って読みとります このときの指針とガイドの点線および絞り値の関係は次図のようになっています

①の時は F 4 の絞りを



②の時は F 16 の絞りを

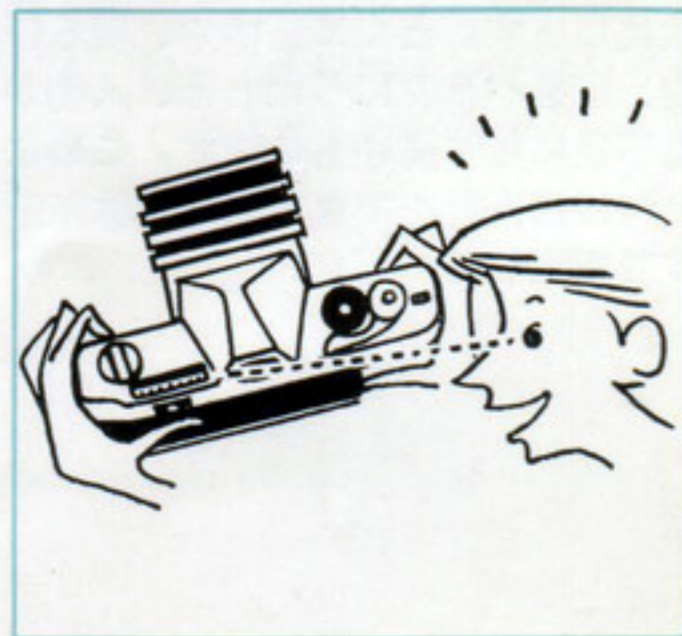


感度の切替

もし被写体が暗くてメーターの指針が働かないような場所では低輝度切替ボタンを押します

メーターの内部では自動的に感度が切り替えられてすぐさま適正露出が得られます

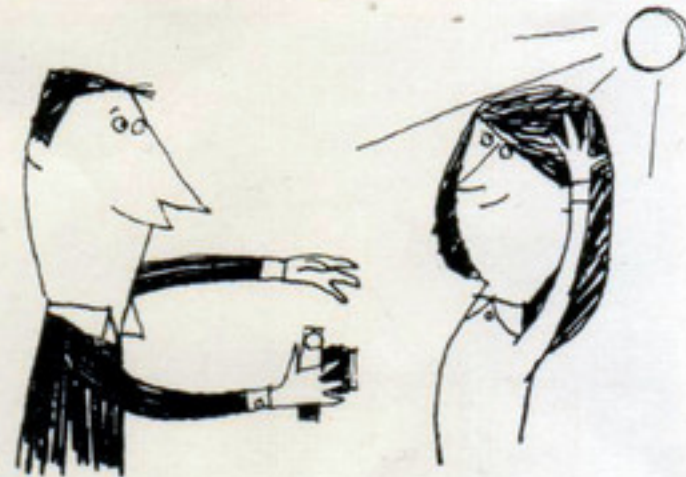
このとき絞り値の読みとり方は前述の通りですが真上からメーターの指針窓をみたのではガイド点線がよくみえないので図のようにカメラの後部斜め上方向より見てください





人物の場合

人物におけるカメラ位置での測定では人物と背景の総合した明るさを測るので、背景の明暗によって人物の露出が変化します。とくに雪中や、明るい建物、空をバックにしたとき、人物が露出不足になり易いものです。このような時は露出計をできるだけ主体に近づけて測定してください



逆光の人物

逆光の時は露出計の受光面に直射光が入射しないよう注意して測定しなければなりません

どうしても受光面に入射するような時は、手などで覆いをして直射光の入らないよう測りその値の約3倍を与えてもよろしい

この方法は人物に限らず近づいて測れぬ被写体にも応用できます



風景の場合

風景は人物のように近づけないのでカメラの位置から測ります。この時は空からの直射光が直接露出計の受光面に入射しないよう注意します。もし空からの直射光が入射すると露出不足となります

非常に広い風景や、風景全体を写す時は撮影位置から比較的近い地上に受光面を向けて測ります。又コントラストの強い逆光の風景や高くて狭いビル街では指示値の2倍の露出を与えるようにします。特に雪景や非常に明るい被写体の中に、黒い被写体のある時は、暗い部分が適正露出になるよう露出計指示値の2倍を与えるようにしてください



このカメラにはメーターが内蔵されておりフィルム感度調節ダイヤルに使用中のフィルム感度を合わせていますがこのダイヤルは ASA 目盛になっています

そこでカメラに装填するフィルムを DIN から ASA に換算するときや装填したフィルムの種類を忘れないようにするためこの感度表示板を利用する訳です

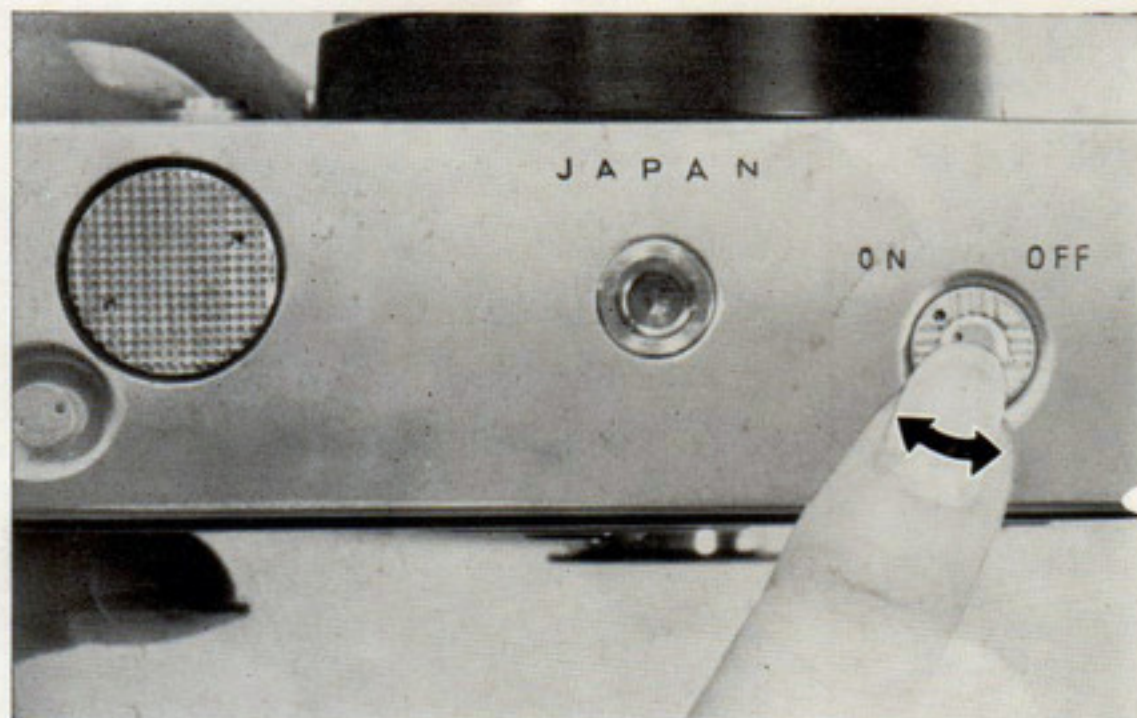
ダイヤルの突起を回わして ASA と書いた白線にフィルム感度数を合わせておけばよいのです

例えば ASA 100 のフィルムならこの写真のように合わせます（下の目盛が DIN 感度を表します）

カメラの保存

カメラは湿気の多いところや塩気の多いところに放置してはなりません。特に零下 10° よりつめたい場所や 40° 以上のあついところではシャッターに悪い影響を及ぼしますから、このような場所で長い間放置しないように注意しましょう

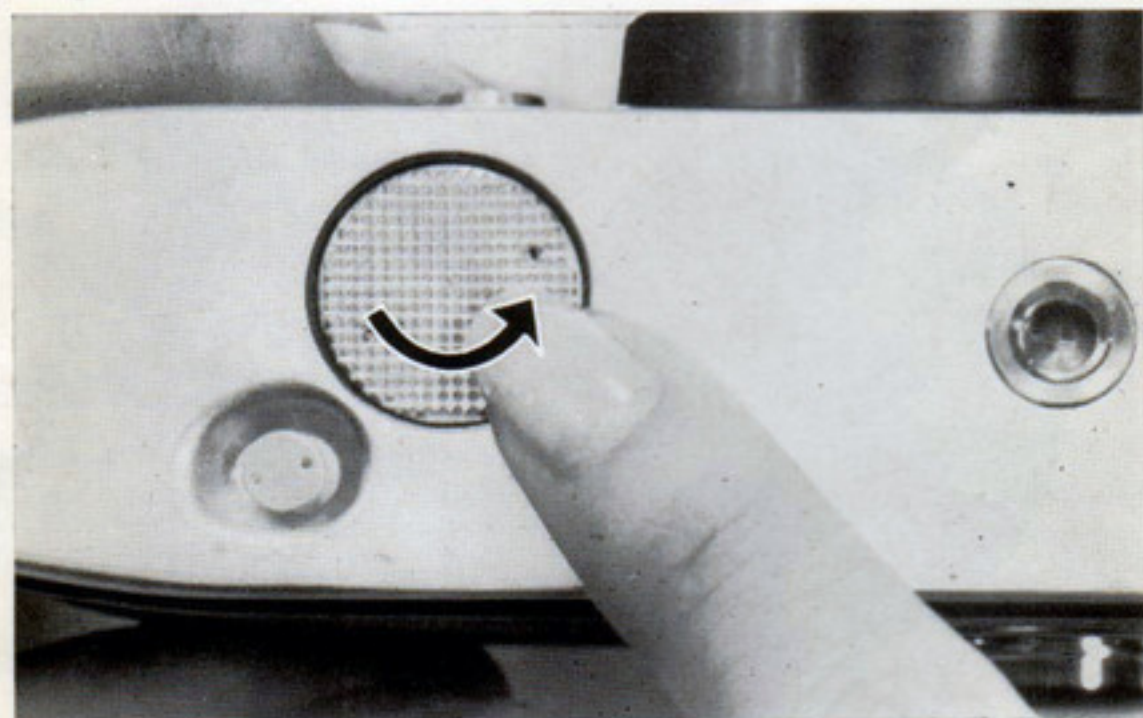
レンズの表面がゴミやなんかでよごれたときはまずゴム球のプロアーでゴミを吹きとばしてから息をふきかけてよく洗った木綿のキレ又はシリコンクロスでやわらかくふいてください



このカメラの露出計には水銀電池を採用しています。ご使用になるときは電池回路切替ボタンをONにしてください。水銀電池はその特性として徐々に性能が低下せず電池の寿命がなくなると急激に低下します。

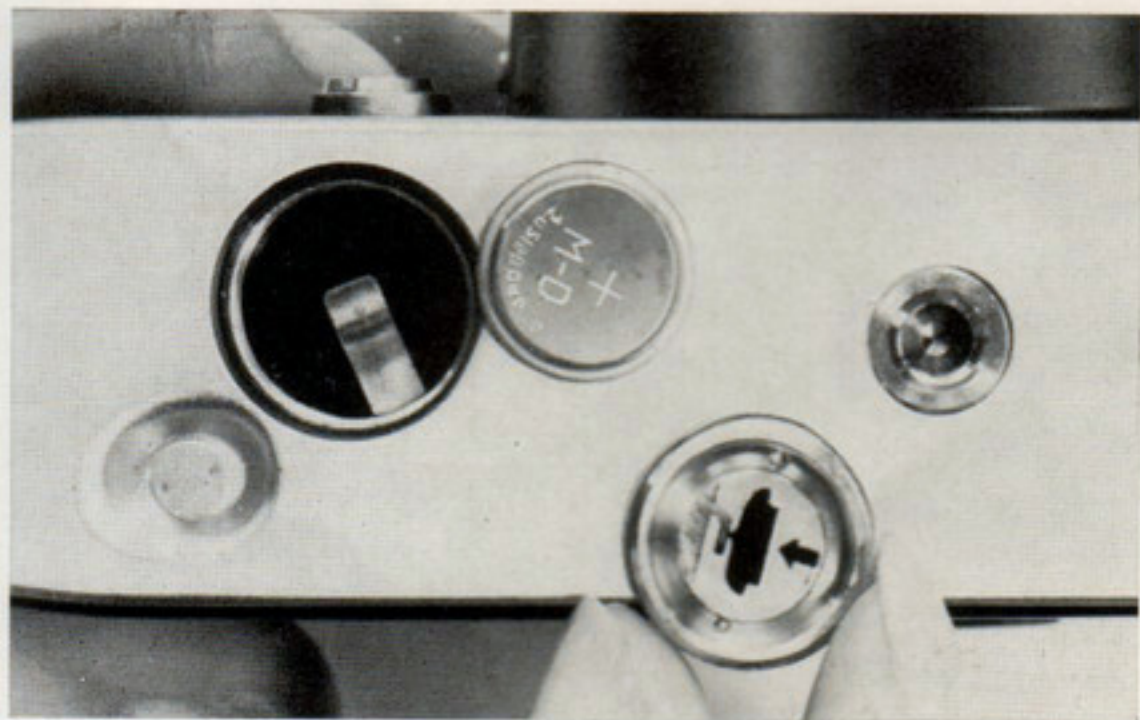
水銀電池の寿命は約2年です。だからカメラのメーター指針が働かないようになれば電池の性能が低下しているのですから新しい水銀電池にとりかえてください。

1



蓋の裏側に電池の方向を示してあります

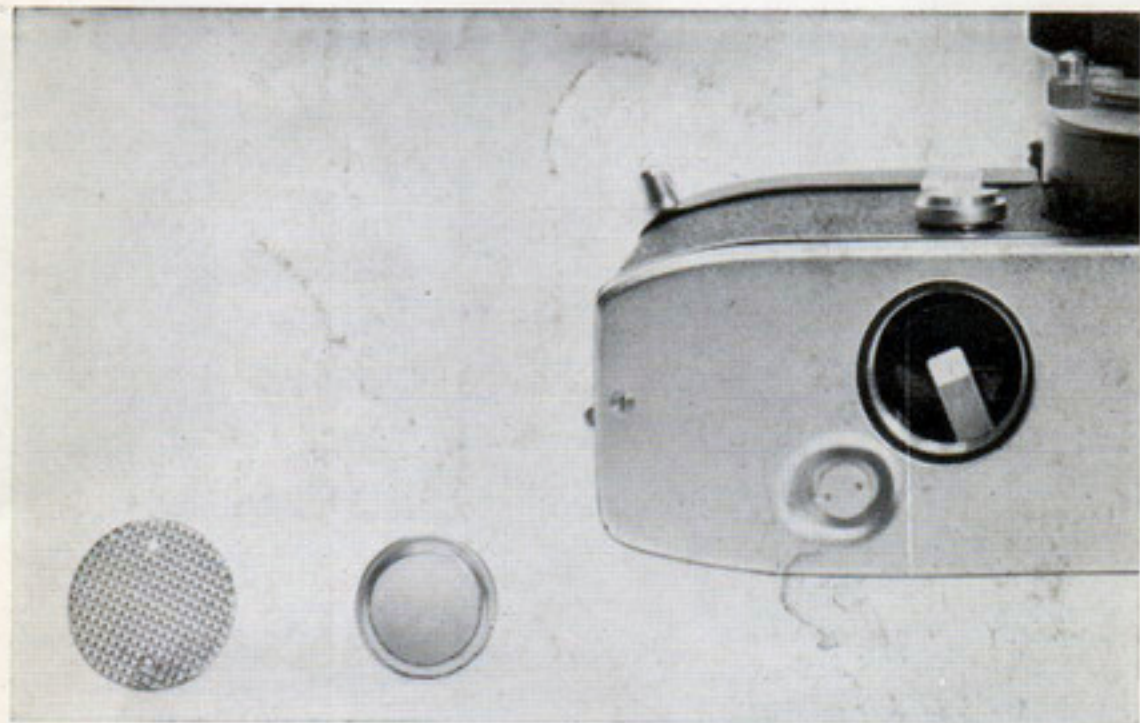
2



電池の交換は

1. カメラ底部の水銀電池底蓋を時計の針と反対の方向に回すと蓋が外れます
2. 中にある水銀電池をとりだします
3. 新しい水銀電池（ナショナルMD型）の+側を蓋の+側と合うようにして入れ替えていただきます
この時電池の極を間違えないようにご注意ください
4. 長時間カメラをご使用にならない時は電池回路の切替ボタンをOFFにしておいてください

3



写真説明

1. 蓋をはずすところ
2. 蓋の内側には電池の方向を示す図が入っている
3. 電池はこの順序でそう入する



このカメラにはミノルタ独自のファインマイクロプリズムをそなえています。ファインダーの中央部には斜めに交叉したマイクロプリズム群が集っており映像が明るく精密なピント合わせができます。作例に示すように特にピントが合わぬ時のボケが強調されますから、急ぎのときも迅速にそして正確なピント合わせが可能です

ピント合わせはフィルム巻きあげ前後いずれでもよくレンズはいつも開放になっています

マイクロプリズムを備えたピント面とともに明るいファインダーをみながら焦点調節リングを左右いずれかに回すと写そうとするものが鮮鋭に写りますこの位置でシャッターを切ればフィルム面にも鮮鋭な像が写ります



ピントが合わないとき



ピントが合ったとき

前述のように、一眼レフは撮影レンズの画像そのものをファインダーを通して見るため、どんなに接近して写しても、パララックス、つまりファインダーで見える範囲と実際に写る範囲との誤差は起りません。その上、被写体の遠近感や背景との関係さらにカラー撮影の場合の色彩効果まで写る通りにわかります。

なお、絞りの変化によるピントの合う奥行（被写界深度）や、背景や前景のボケ具合（カラー白黒ともに）などの検討は、前頁の手動絞りボタンを下におしさげて見ればよくわかります。

こうして、露出と絞り効果とを考慮の上、適当な絞りにセットしてから撮影してください。

ファインダーの覗き窓の黒いリングは時計の針と反対の方向に回すとはずれます。

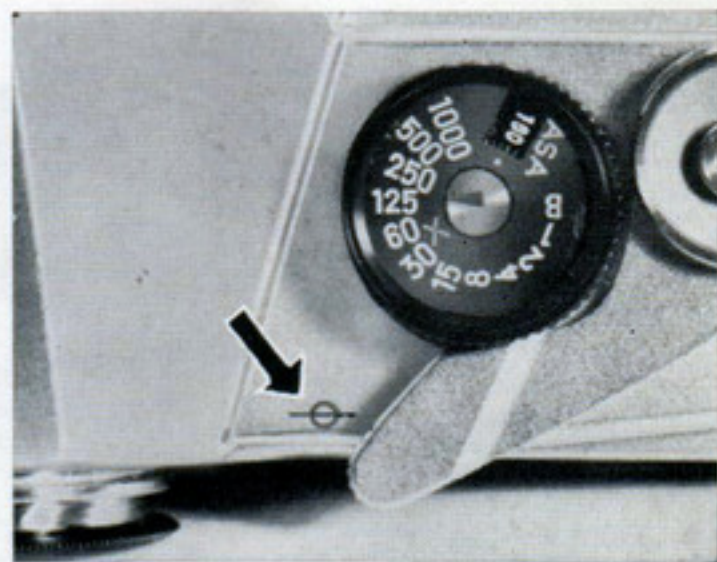
カメラの接眼リングの内側はバヨネットとねじの兼用式になっており、ここにバヨネット式の新しいアングルフインダーやマグニファイヤーが迅速確実に取り付けられます。また各種老眼用アタッチメントリングが取り付けられます。

★ファインダー接眼リングを取り外したときは紛失しないようご注意ください。



赤外線指標

赤外線フィルムを使用するときは、赤外線は波長が長いので、まず被写体に焦点を合わせてから▲印の示す距離目盛をよみとって、その目盛を赤字のRの位置までずらせてください。赤外線撮影をするときは赤フィルターを併用します。



カメラ上カバーの赤い○印はフィルム面の位置を示したものです。カメラから被写体までの距離とは、厳密にいうとレンズからではなく、フィルム面からの距離をいいます。



カメラの持ち方は大きくわけて、縦位置と横位置の二通りがあります

カメラが動かないようにしっかりと顔にあて、そしてシャッターボタンを静かに押して下さい。カメラが動くと折角の写真がブレてしまいます。なお、レバー巻き上げ式カメラは縦横位置ともにファインダーを右の眼でのぞく方が、巻き上げのときレバーが顔につかえずに便利です

二重露出防止になっていますから、一度シャッターを切れば次のフィルムを完全に巻き上げなければシャッターは切れません。またシャッターを切らなければ次のフィルムが巻けないことはもちろんです

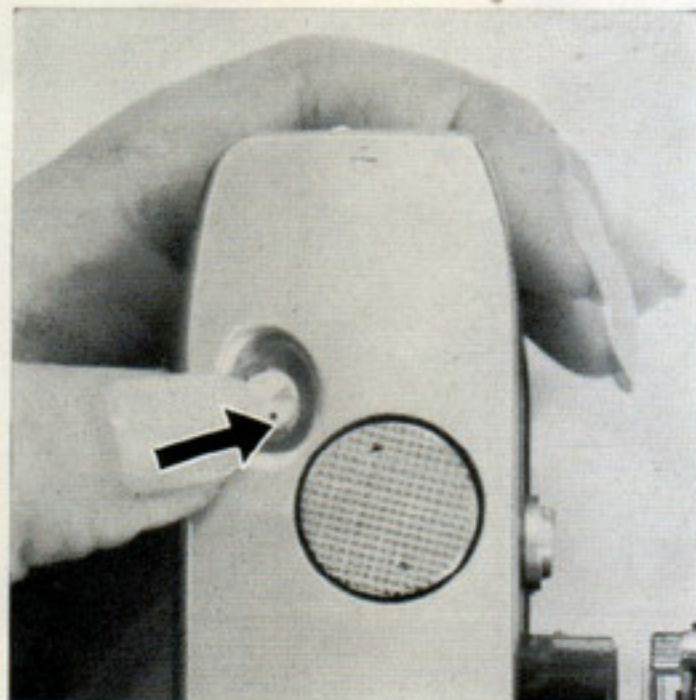
▶ ご注意 ◀

- ◆ $\frac{1}{30}$ 秒より遅いシャッター速度で写すときは手持ち撮影ではカメラブレを起す恐れがありますから、三脚をお使いください。もし三脚がなければ、適当な台の上に乗せるか、またはそわせるかしてもよいのです
三脚などを使用する場合は、ケーブルリリースを使った方がよいのです
- ◆ ケーブルリリースはシャッターボタンの上にネジ込んでお使いください
- ◆ 1秒、 $\frac{1}{2}$ 秒のように長いシャッターを切ったときは、必ずシャッターの作動が終ってから次のフィルムを巻き上げるようにしてください。特に、フィルムを入れずに空写しをするときはご注意ください

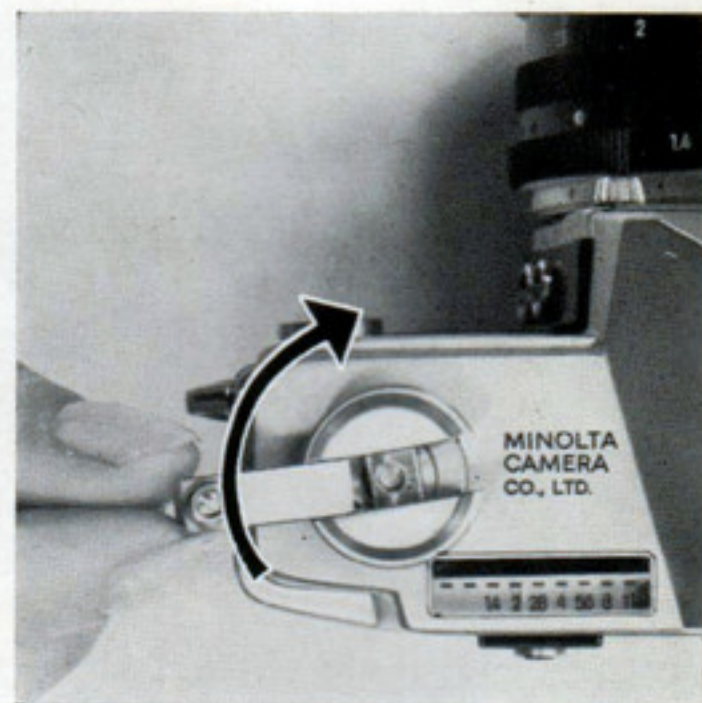


フィルムを全部写し終ると、巻き上げレバーはそれ以上回わせなくなります。このとき無理にレバーを回すと、フィルムがパトローネの軸からはずれて巻き戻しができなくなりますからフィルムが終りに近づいたら巻き上げにご注意ください。

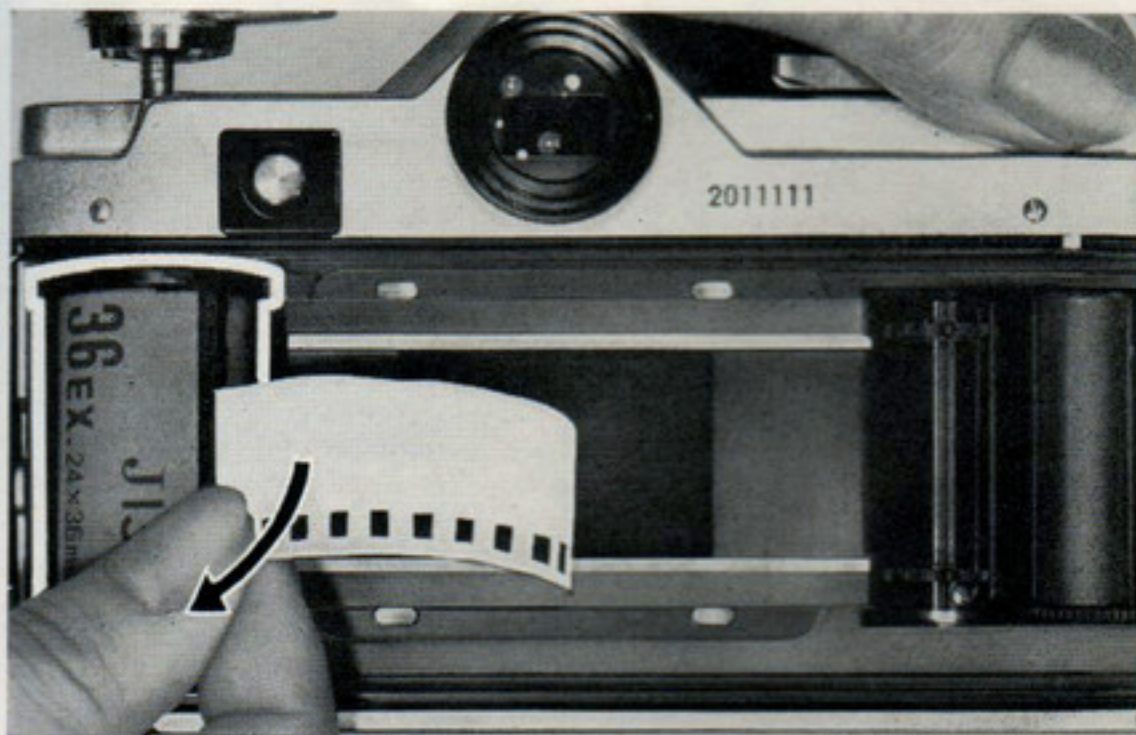
35mm フィルムは裸フィルムですから、パトローネを取り出す前に、必ずフィルムを元のパトローネの中へ巻き戻さなければなりません。



1. カメラの底の巻き戻し用押しボタンを押し込みます。(このボタンは指を離しても押し込まれた状態のまま止まります。) もし指を離したときボタンが元通り出てくる場合は、ボタンを押したまま巻き上げレバーを少し回してください



2. 巻戻しクランクを起して矢印の方向に回すと、フィルムは元のパトローネの中へ巻き戻されていきます
最後にフィルムが巻取軸のクリップから外れて、急に巻き戻しが軽くなるのが手ごたえでわかりますから、そこで巻き戻しを止めます



3. そこで巻き戻しノブを十分引き出して裏蓋を開け、フィルムを取り出します

図のようにパトローネのテレンプの右端とフィルムとを一緒に持って、カメラのフィルム受軸からパトローネを外すようにして、やゝ右側から先に取り出します

★フィルムの出し入れのときに、シャッター幕に強く触れないようご注意ください

★フィルムの出し入れはなるべく日陰で行ってください

巻き戻しをする場合、巻き戻しクランクのついたノブを引き上げてはいけません。パトローネの軸からはずれてしまいますし、誤って強く引き上げると、裏ぶたが開きフィルムに感光します

フィルムは全部パトローネの中へ巻き込んでしまわない方がよいのです

(パトローネによってはフィルムの出口から多少光がはいることもありますから)

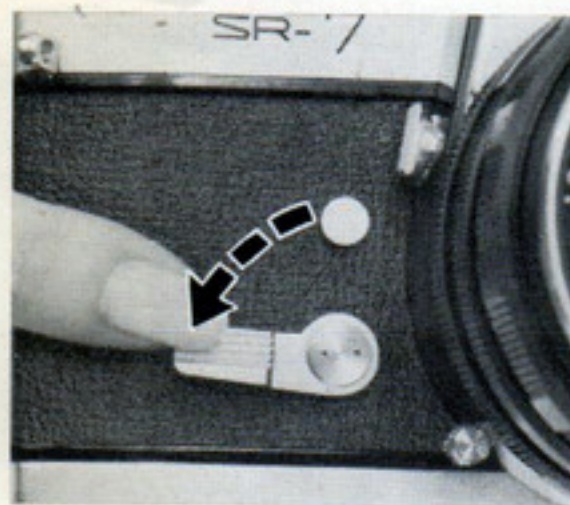


セルフタイマーは自分も一しよに画面に入りたい記念撮影や一人旅には絶対に必要な装置です

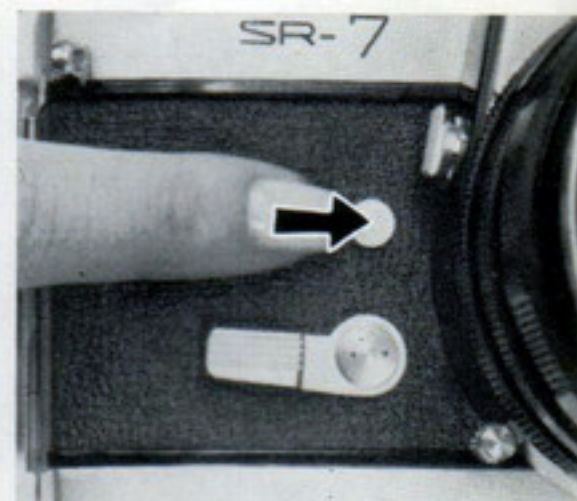
また、スローシャッターで手持撮影をする場合にも、短いセルフタイマーを利用してシャッターを切ると、指でシャッターボタンを押すよりずっとカメラブレを少なくすることができます

セルフタイマーをかけて後、始動ボタンのかわりに、間違えてシャッターボタンを押すと、セルフタイマーは作動せずに直ちにシャッターが切れてしまいますからご注意ください

☆セルフタイマーのチャージはフィルム巻き上げの前後いずれでもさしつかえありませんが、ご使用の時はフィルム巻き上げレバーを巻き上げてからにしてください



1. セルフタイマーのレバーを倒すと、セルフタイマーがチャージされます
レバーを倒す角度によって約1秒から10秒まで作動時間を自由に調節することができます
ただし約45度以上レバーをチャージしないとシャッターは切れません



2. 次にセルフタイマー始動ボタンを説明図の方向に少し押しすと、セルフタイマーが作動を始め、数秒後に自動的にシャッターが切れます。(勿論、フィルムを巻いてなければシャッターは切れません) 始動ボタンを押すときはカメラを動かさないようご注意ください



夜間や、うす暗い所でのスナップや室内撮影などには、閃光球かスピードライトを使ってフラッシュ撮影をしてください。また、空、海、窓外を背景とした人物撮影や逆光線撮影などの場合に、陰部の補助ライトとして使うこともできます。閃光球またはスピードライト（ストロボ）がシャッター幕の開くと同調発光します

カメラのレンズ台の向って右側面に FP（FP 閃光球用）と X（スピードライト用）両接点の 2 つのターミナルがあります



閃光球を使う場合

閃光球はフォーカルプレーンシャッター用の FP 級のものをお使いください。発光器のプラグを FP ターミナルへ差し込みますと、1 秒から $\frac{1}{1000}$ 秒までどのシャッター速度でも正確に同調発光しますが、ある程度明るい場所での動体撮影には $\frac{1}{60}$ 秒以上の高速度をお使いください

その他の閃光球をご使用になるときは次頁のフラッシュ組合わせ表を参考にしてください

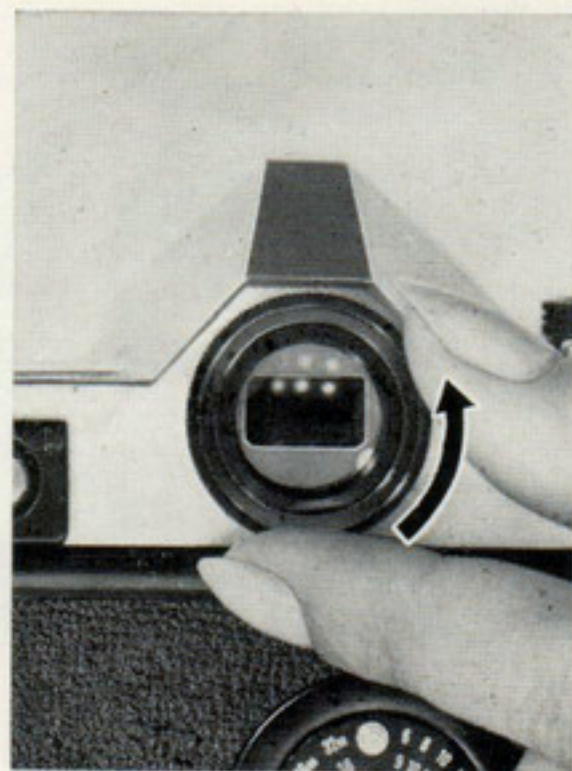


スピードライトを使う場合
スピードライト（ストロボ）を使うときは、シャッターダイヤルの赤い X マーク（約 $\frac{1}{60}$ 秒）に合わせ、X ターミナルを使用します

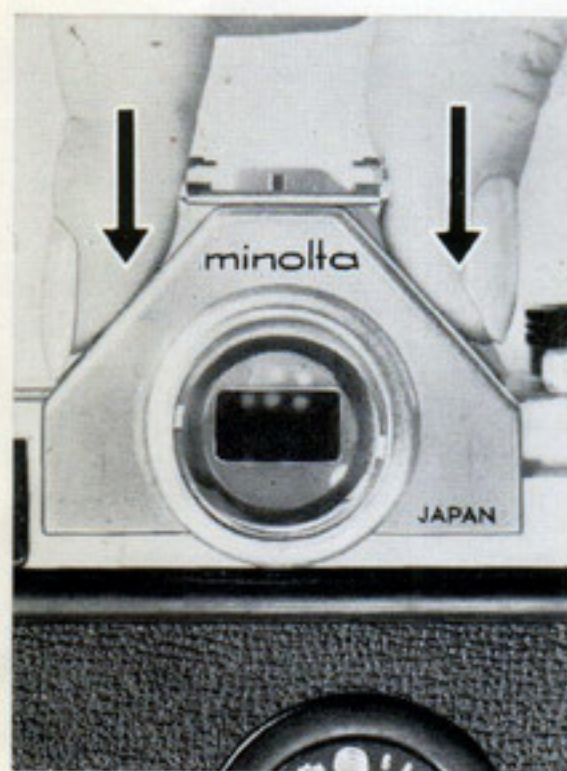
発光器の本体はカメラから離しても使用できますが、カメラに取りつけて使用したいときは、アクセサリクリップ（付属品として発売しています）をご利用ください。その場合は次のようにして取り付けます

コードの取り付け

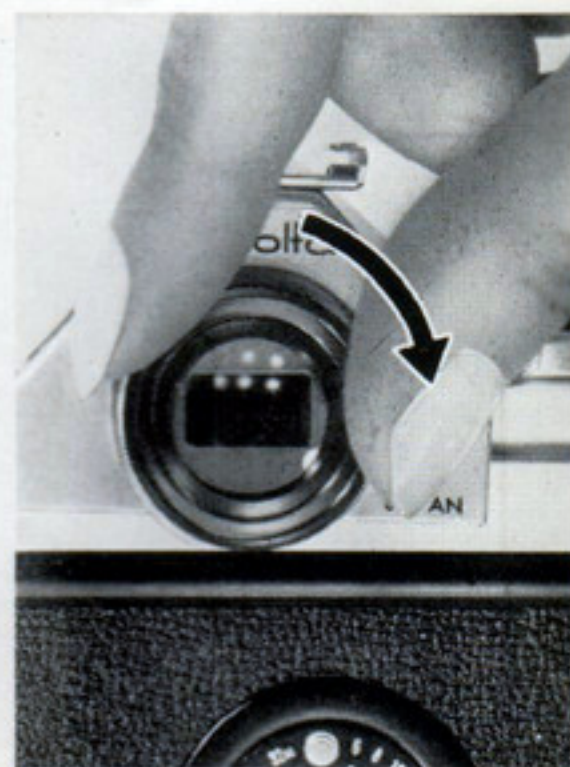
発光器のコードの先についているプラグをカメラのシンクローターミナルに差し込みます。このときFP級の閃光球を使うときはFPと書いてある上側のターミナルに、スピードライト（ストロボ）を使うときはXと書いてある下側のターミナルに差し込んでください



A) ファインダーののぞき窓の黒いリングを時計の針と反対方向に回わして取りはずします



B) アクセサリクリップを取りつけます



C) リングを元通りねじ込んでしめつけます



D) 発光器の足をアクセサリクリップに後方から差し込み発光器のねじで固定します

フラッシュ撮影組合せ表

(斜線の部分が適当な速度)

接点級		シャッター速度 秒														
		B	1秒	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	X	1/60	1/125	1/250	1/500	1/1000		
接点	FP	斜線														
	F															球
	X															F
接点	M	球	斜線													
	スロ	トポ	斜線													

フラッシュ露出の決め方

○各種閃光球の説明書には、その光量に応じてガイドナンバーがあり、各種感光度のフィルムと種々のシャッター速度に応じた適正絞りを決めるための指数が一覧表で示してあります

$$\text{被写体距離} \times \text{絞値} = \text{ガイドナンバー}$$

上記の関係式から、ガイドナンバーを被写体距離（光源まで）で割った値が適正絞となります

○スピードライトの場合は、露出にシャッター速度を考慮する必要がありませんから、直接各場合の適正絞を示してあります

○明るい所で補助ライトとして使用する時は、主光線の露出に従います

★一眼レフはミラーがはね上っている瞬間にフラッシュが発光しますから、ファインダー視野は真っ暗で、発光しなかったように感じますからご注意ください

○ベースレスの小型フラッシュバルブは光量が少ないのでなるべく 1/15 秒以下のスローで用いてください

このカメラには超広角 21mmを使用するためのミラーロックボタンをそなえています

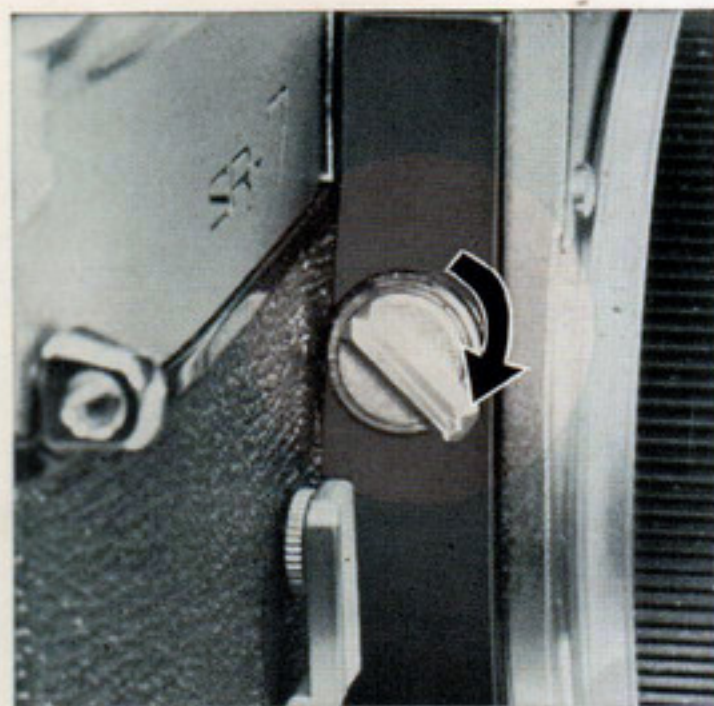
写真のようにロックボタンのピンを中央に押し下げて止まるまで回すとミラーが上ったまゝの状態になります。そこで超広角のレンズを取り付けて使用するとミラーは上ったまゝでシャッターのみ作動します。このときファインダーでは映像の確認ができないのでピント合わせはレンズのスケール目盛を用い、ファインダーは接眼レンズを利用して専用の透視ファインダーを使用します。

ミラーを正規の位置にもどすには使用後ロックボタンのピンを中央に押し上側に止まるまで回しますとミラーが降りて正規の状態になります。

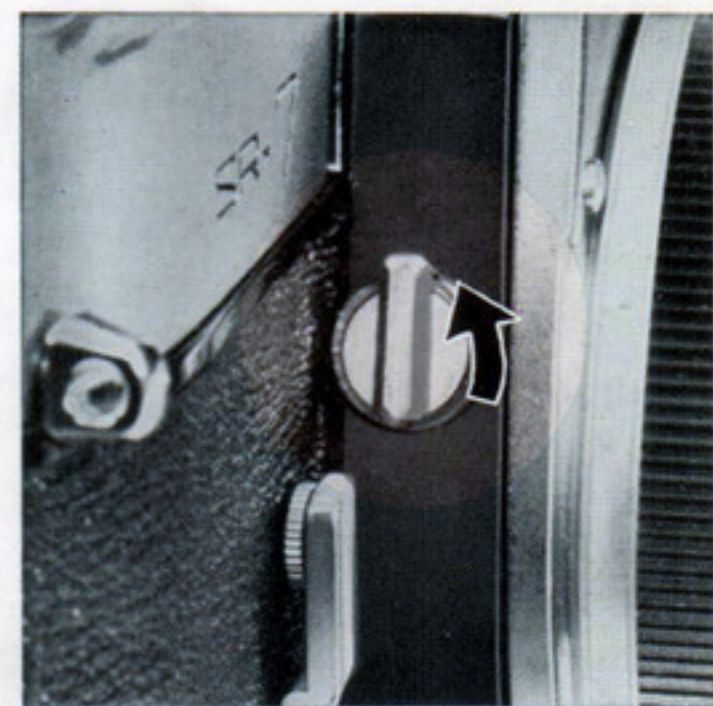
この方法は被写体を見なくても連続撮影のできる複写撮影や高倍率顕微鏡写真を撮るときなどに利用すると大変有効です。

(超広角レンズをお使いになるときは必ずミラーをあげ、レンズの後部がミラーその他にあたらないようレンズの着脱時にご注意ください)





ミラーロックボタンを下側に回わしてミラーをはねあげたとき



ミラーロックボタンを上側に回わして通常の状態にしたとき



ミノルタSRは $\frac{1}{8}$ 回転のバヨネットによって、迅速確実にレンズ交換ができますから、忙しいスナップの時や、長い望遠レンズや蛇腹装置を使う時、顕微鏡撮影の時などに非常に便利です

フィルム巻き上げ前後、レンズ交換をしても何らさしつかえなく交換したレンズの絞は自動的に開放になっています



レンズを取りはずすには
レンズ交換用ボタンを図のように下方に少し押しながら、レンズ鏡胴の基部を持って時計の針と反対の方向に止まるまで($\frac{1}{8}$ 回転)回すとレンズがはずれます

☆専用レンズ以外の交換レンズを使用する時には、各種アダプターが用意されています



レンズを取りつけるには
レンズ鏡胴の赤点を、カメラの前カバーの赤点に向けてレンズをカメラの本体に差し込んで、カメラのレンズ座金とレンズとをピタリと合わせ次にレンズ鏡胴を時計の針の方向に $\frac{1}{8}$ 回転するとカチリと止まります

★従来のレンズで完全自動絞り方式(絞りボタン付)の交換レンズは何れも作動します



SR用ロッコール交換レンズ

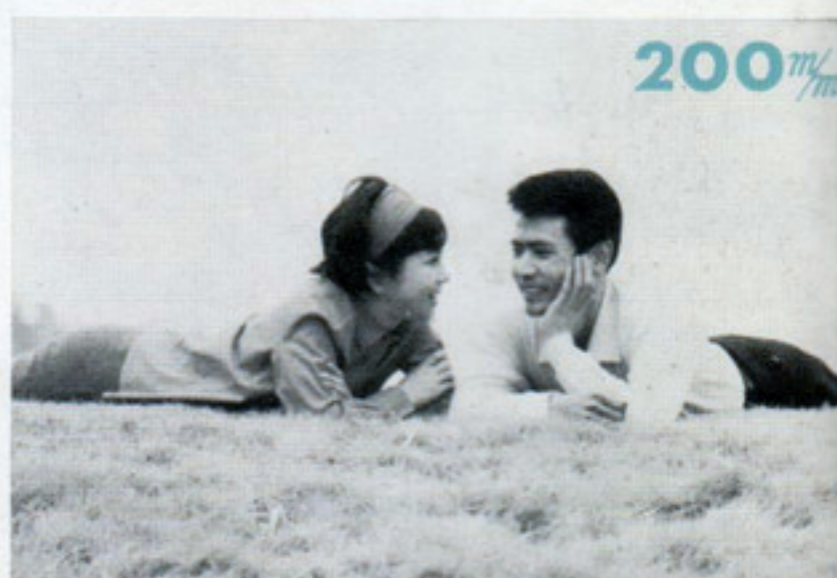
SRはどんなレンズを使ってもファインダーで見たままの状態が100%のフルサイズに撮影されますから、レンズ交換に最も適したカメラです。

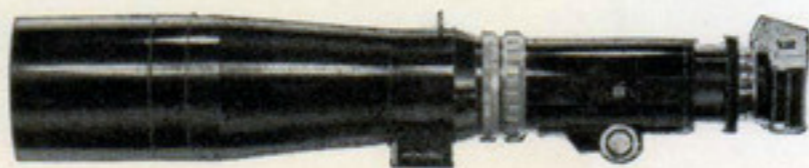


135 m/m

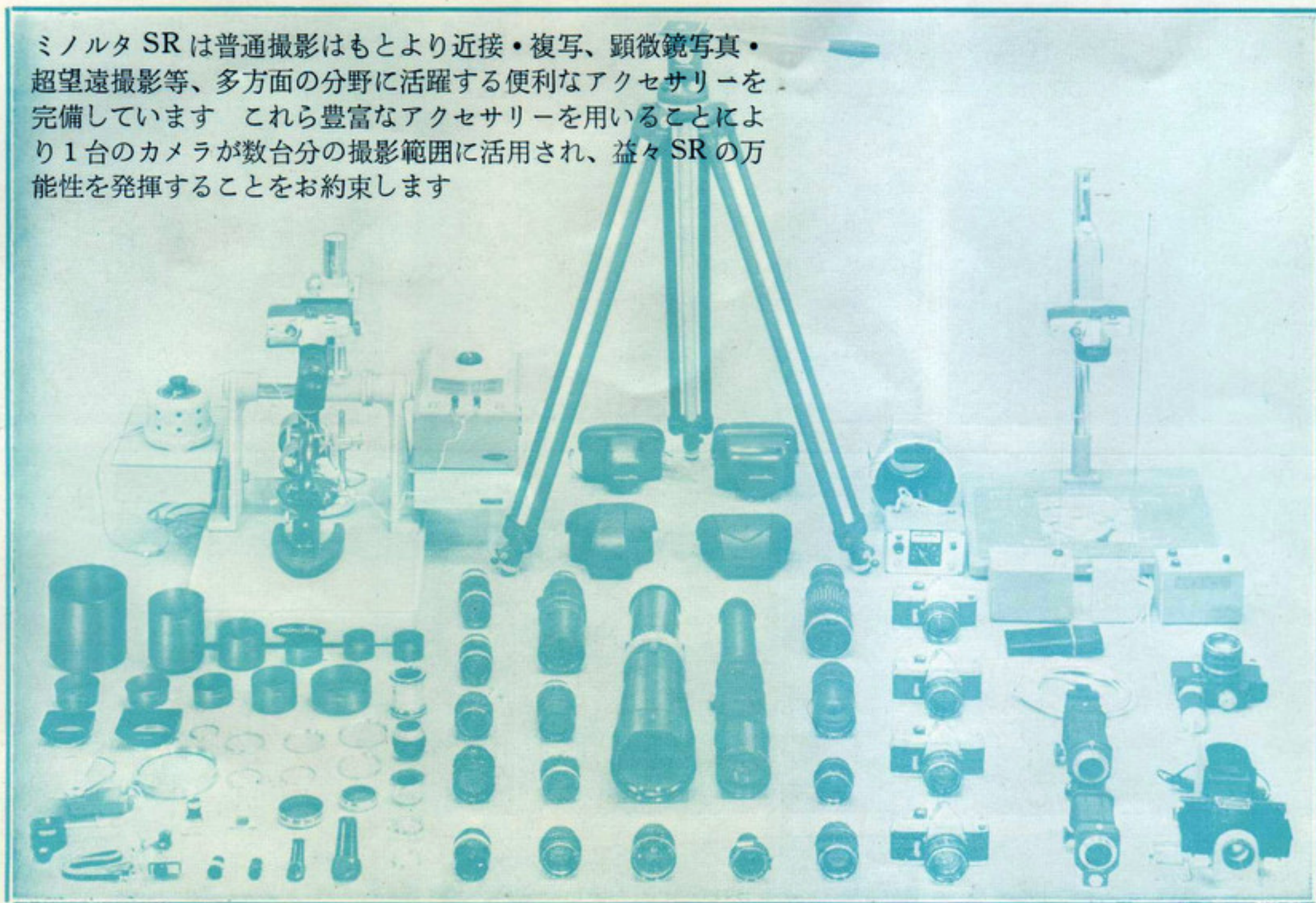


200 m/m



35 m/m 55 m/m 100 m/m 300 m/m 600 m/m 

ミノルタ SR は普通撮影はもとより近接・複写、顕微鏡写真・超望遠撮影等、多方面の分野に活躍する便利なアクセサリを完備しています。これら豊富なアクセサリを用いることにより1台のカメラが数台分の撮影範囲に活用され、益々SRの万能性を発揮することをお約束します。



(▲印のフードはケース付で別に販売しています)

名 称	口径比 焦点距離	画 角	フィルタ ーネジ径 (mm)	最 短 距 離	正 価			用 途
					レンズ	フ ード	ケース	
Wロッコール QH	4/21	92°	55	90cm	¥28,000		¥1,000	驚異的な超広角ですので特殊撮影に便利
オート Wロッコール SG	3.5/28	76°	67	60cm	21,000	▲ ¥1,200	1,000	ひきの少ない処での広範囲の撮影や、遠近感をきかして主題を強調する時、深度を利用したスナップに好適
Wロッコール QE	4/35	64°	55	40cm	9,400	▲ 1,500	400	
オート Wロッコール HG	2.8/35	64°	55	40cm	23,900	▲ 1,500	600	
マクロロッコール QF	3.5/50	45°	55	23cm	18,500		1,000	近接・拡大撮影用
オートロッコール PF	1.8/55	43°	55	50cm	15,000	▲ 900	600	最も広い分野の撮影に適した大口徑標準レンズ
〃	1.4/58	41°	55	60cm	21,000	▲ 900	600	
ロッコール TC	4/100	24°	46	120cm	8,350	450	800	ポートレート、戸外スポーツ、山岳など、気軽るに望遠撮影のできる軽量なレンズ
オート テレロッコール QE	3.5/100	24°	55	120cm	16,400	700	900	
オート テレロッコール PF	2/100	24°	62	120cm	26,200	800	1,000	
ロッコール TC	4/135	18°	46		8,100	500	900	蛇腹装置と組合わせて使用
ロッコール TC	4/135	18°	46	150cm	11,200	500	800	近寄れぬ遠方のものや舞台人物のアップ、野外スポーツなどに好適
オート テレロッコール PF	2.8/135	18°	55	150cm	26,400	700	900	
テレロッコール QF	3.5/200	12°	67	250cm	31,300	1,200	1,500	肉眼では分らぬような遠方の目的物を写すに好適、報道、生態の撮影に望遠効果を発揮
テレロッコール TD	4.5/300	8°	77	450cm	42,300	1,500	2,200	
テレロッコール TD	5.6/600	4°	126	1000cm	116,000	4,000	7,000	
オートズームロッコール	3.5/80~ 160	30°~ 15°	77	250cm	69,500	1,500	2,200	もっとも実用的な高性能小型軽量ズームレンズ
オートズームロッコール	8/160~ 500	15°~ 5°	77	450cm	135,000		6,000	

新発売



強い遠近描写と深い被写界深度が得られる

超広角 Wロッコール QH F4/21mm

画角 92° (標準レンズの約2倍大)

距離目盛 90cm~∞

フィルターネジ径 55mm

このレンズは標準レンズの2倍強の画角(92°)をもっており、およそ人間の視覚では想像できない広範囲の撮影が可能です。深い深度を利用してのとっさの場合のスナップに、狭い場所での撮影に、あるいは遠近感を誇張した特殊な分野の撮影に眼では見られない変わった写真が撮れます



広範囲の撮影・優れた遠近誇張感が得られる

広角 Wロッコール SG 3.5/28mm

画角 76°

最短距離 60cm

フィルターネジ径 67mm

完全自動絞り

35mm 広角ではものたりず、21mm 超広角に満足できぬ方々に 28mmをおすすめします。一限レフのファインダーが100%生かせる超広角レンズはこのレンズのみです

広画角の76°とボケルことのないパンフォーカス、そして優れた遠近誇張感は肉眼の視界からすばらしい超広角の世界におきかえてくれます。だれが撮っても失敗のない扱い易い広角レンズです。



SR 交換レンズの最高峰

オートズームロック
 F 3.5 80mm~160mm
 画角 32°~16°
 フィルターネジ径 77mm
 完全自動絞り
 最短撮影距離—2.5m
 アタッチメント使用時—
 1.4m

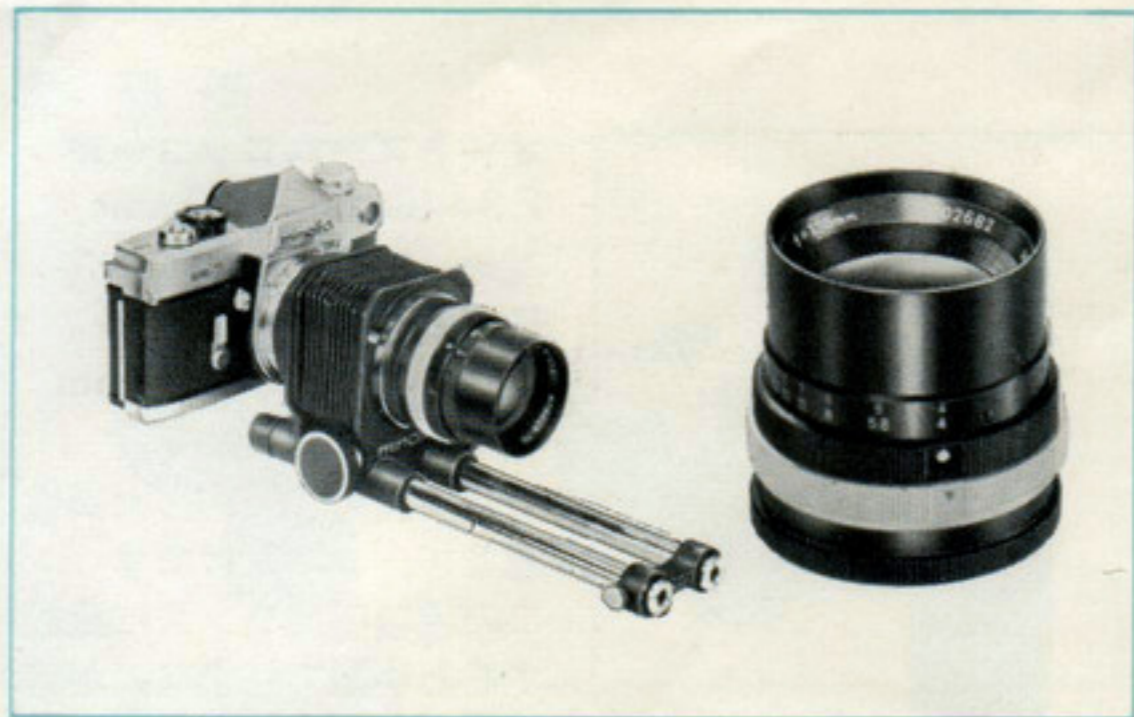
携帯性と手持ち撮影に留意して製作したもっとも実用的なズームレンズです。機械補正式でズーミング中焦点移動がなく、長焦点にしても明るさが変化しない特徴をもち、常に鮮鋭な画像が得られます。一本のレンズで数本分の働きは勿論、ズーム効果を利用して適切な構図を決めるのに便利です。



オートズームロック
 F 8 160mm~500mm
 画角 15°—5°

最短撮影距離 4.5m
 フィルターねじ径 77mm
 完全自動絞り

望遠撮影用に製作した高性能なズームレンズです。この種の望遠レンズに比較すると小型で軽量なのが特長で機動性に富んでいます。スポーツ写真・風景生態等の撮影に新しい視覚を見出せることでしょう。



動植物の生態撮影に……………

ロッコールTC蛇腹用レンズ
F 4 135 mm

蛇腹装置に取付けて使用しますと、風景撮影からそのまゝ $\times 1.1$ 倍までの接写ができます
他に複写・スタジオなどの広範な撮影領域にも役立ちます

レンズ ¥ 8,100
ケース ¥ 900

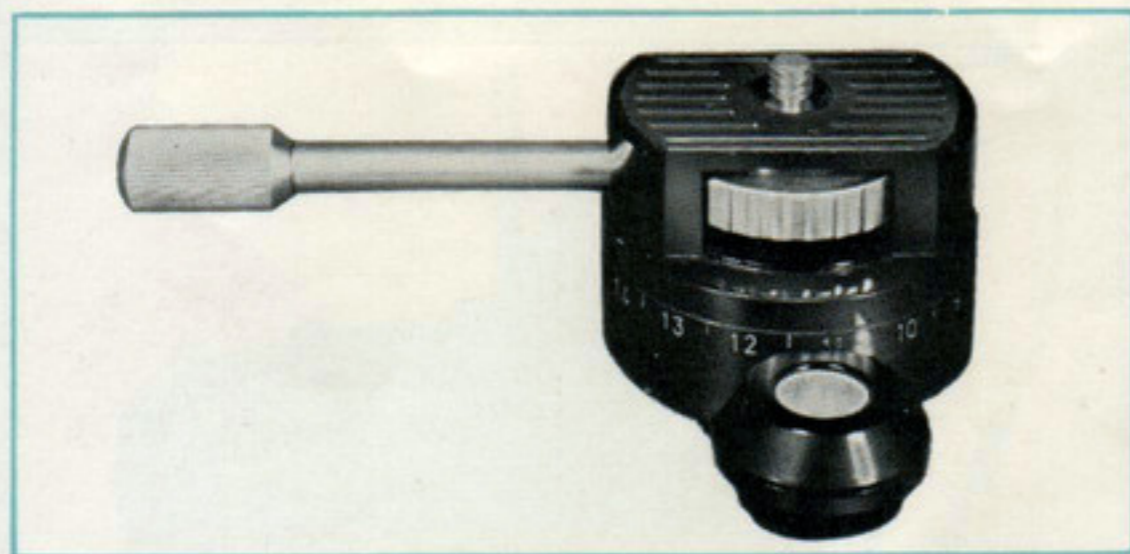


一般撮影は勿論文献、拡大撮影に最適な……………

マクロ ロッコール QF
F 3.5 50 mm
画角 45°
フィルターネジ径 55 mm

接写用具を使用せず 焦準リングの回転で ∞ から 23cm の近距離まで撮影できます。特に文献・複写などでは完璧な描写力が得られます
撮影倍率、露出補正目盛付で、専用中間リングを使うと等倍までの撮影が可能です

レンズ ¥ 18,500
ケース ¥ 1,000



SR用パノラマヘッド

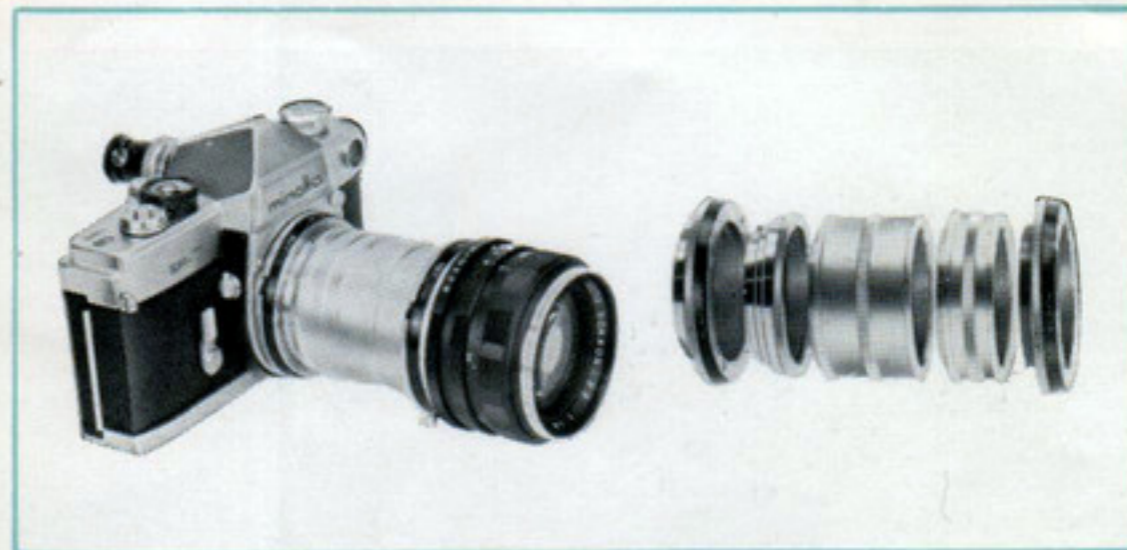
ミノルタ SR にこのパノラマヘッドを用いますと広々とした風景や広い範囲の被写体を一つの写真にすることができます

このパノラマヘッドで一枚撮影するごとに少しずつカメラの角度を変えて撮影すると各種のロッドレンズを共通に使うことができます

そして 360° まわりの被写体を全部撮影することが可能です。使用者の希望する枚数だけ撮影しその後写真をつなぎ合わせてすばらしいパノラマ写真が出来ます

特に長い地平線のみえる遠景撮影に効果があります

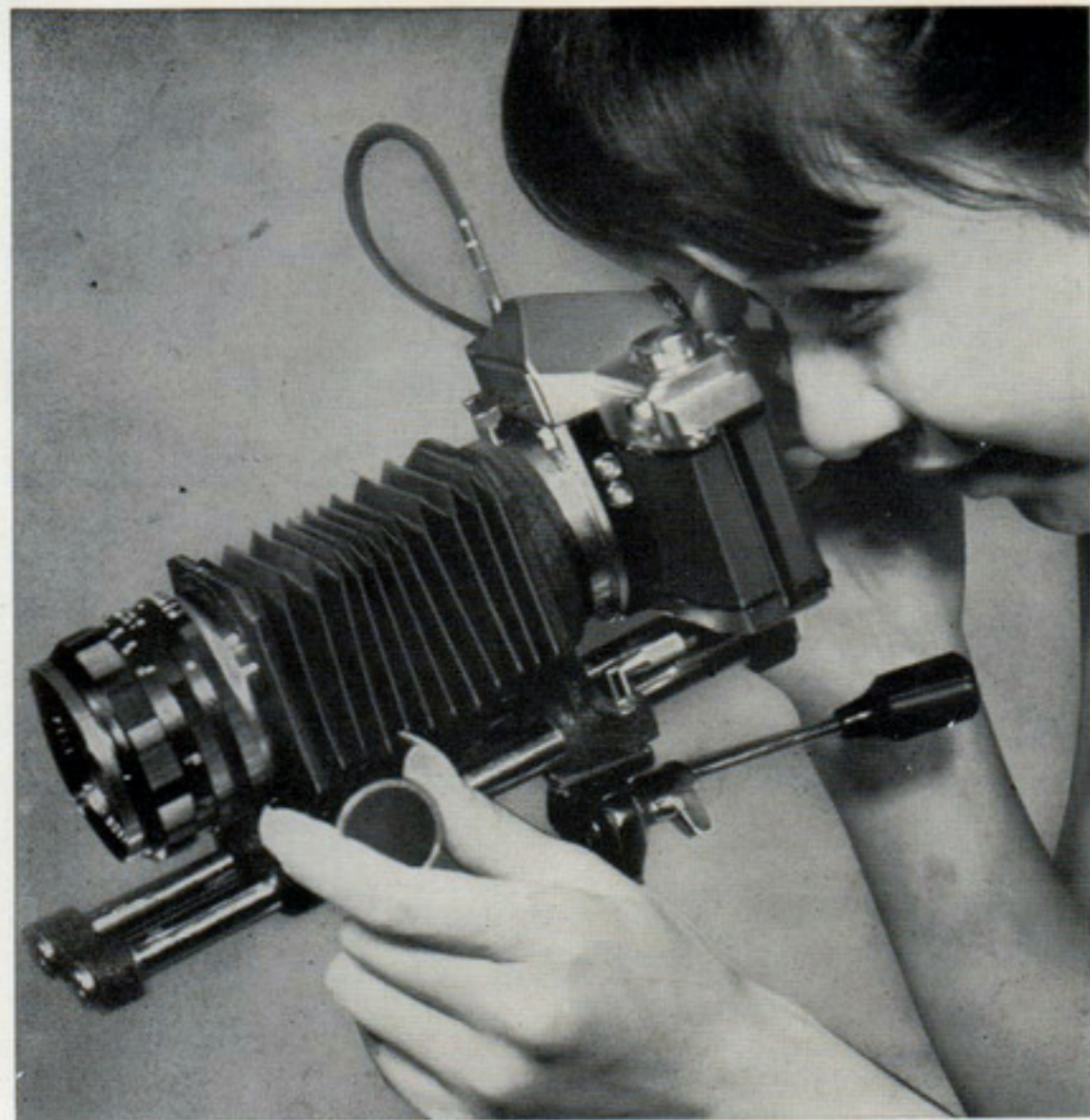
¥ 2,500



近接撮影に必要な中間リング, 中間リング

SR用中間リングは5コ1組となっていて各種の組合せにより標準レンズの最短撮影距離から連続的に約23m (実物の1.4倍) まで55ミリの標準レンズで撮影ができます

¥ 2,500



デラックス型蛇腹装置



普及型蛇腹装置

蛇腹装置

微小物の拡大や超接写に必須のもので、動植物の生態写真・科学写真の撮影に便利です

普及型は携帯に便利な折たゝみ式になっています。

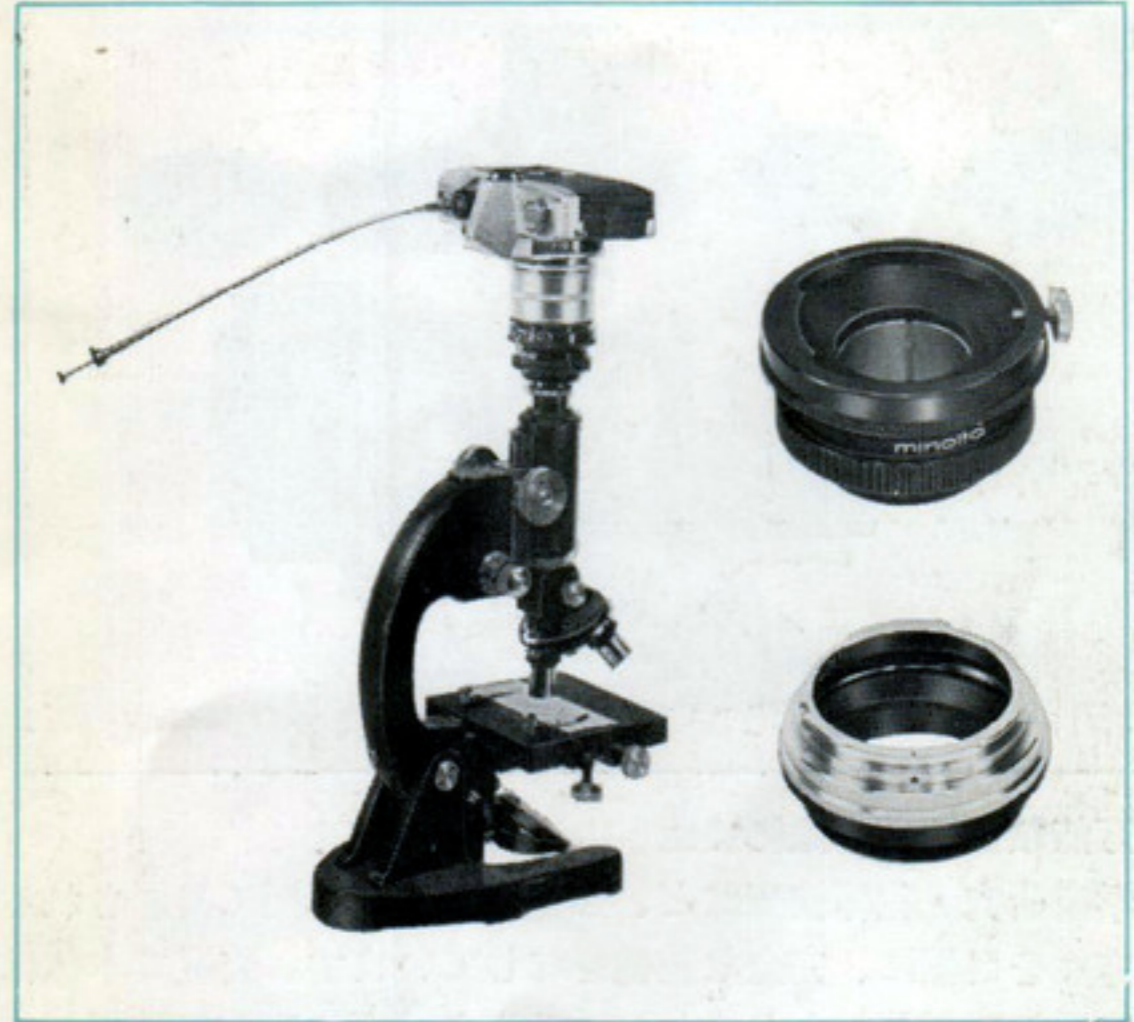
デラックス型は、スライドネガの複写装置がついており、スライドから更にトリミングをして撮影することもできます



複写装置

カメラを支持台にとりつけて印刷物・写真・絵画などの複製保存や研究用の標本撮影に利用します
中間リング、蛇腹装置を併用してパララックスのない一眼レフの利点を充分活用することができます

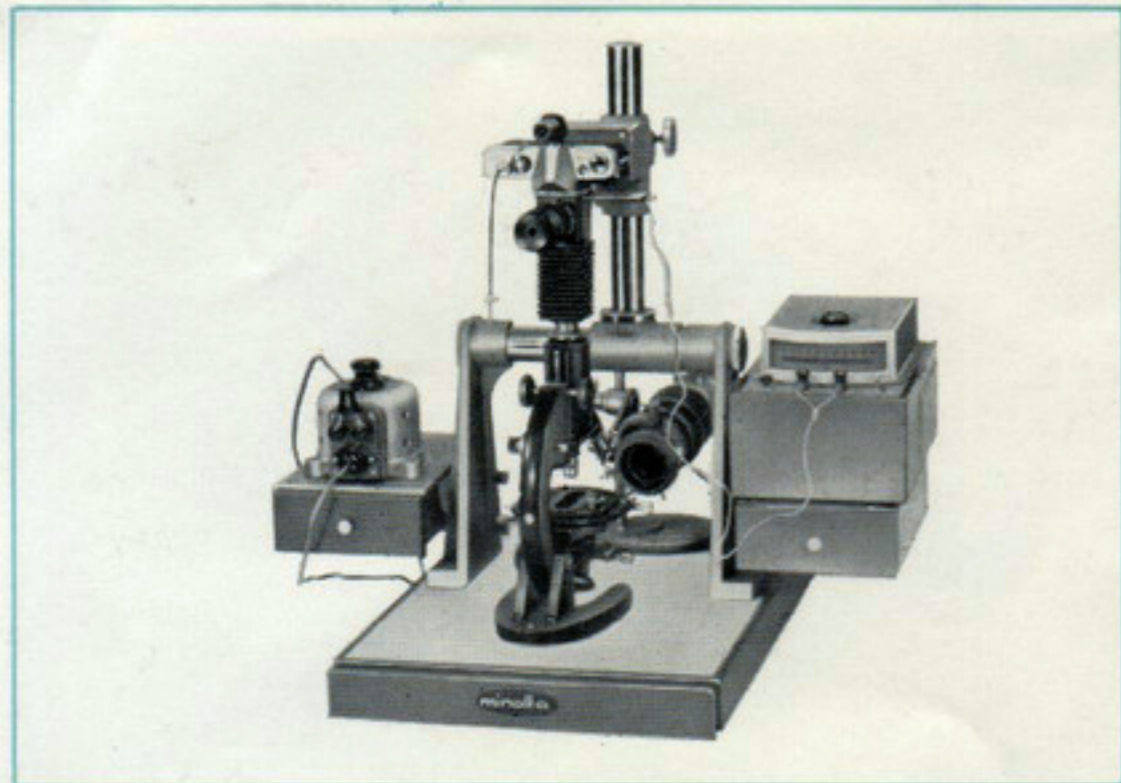
¥ 7,500



顕微鏡アダプター

このアダプターはカメラと顕微鏡間を連結して被検物をファインダーでみながら簡単に撮影できる簡易顕微鏡アダプターです

¥ 2,800



万能顕微鏡写真撮影装置

学術研究・犯罪捜査など、顕微鏡写真を専門に撮影される方々を目標に、完全な装備をなしています。装置で本体は充分な防震装置がなされているほか、高感度露出計照明装置も附属しています。またどんな顕微鏡にも使えます

¥ 147,000

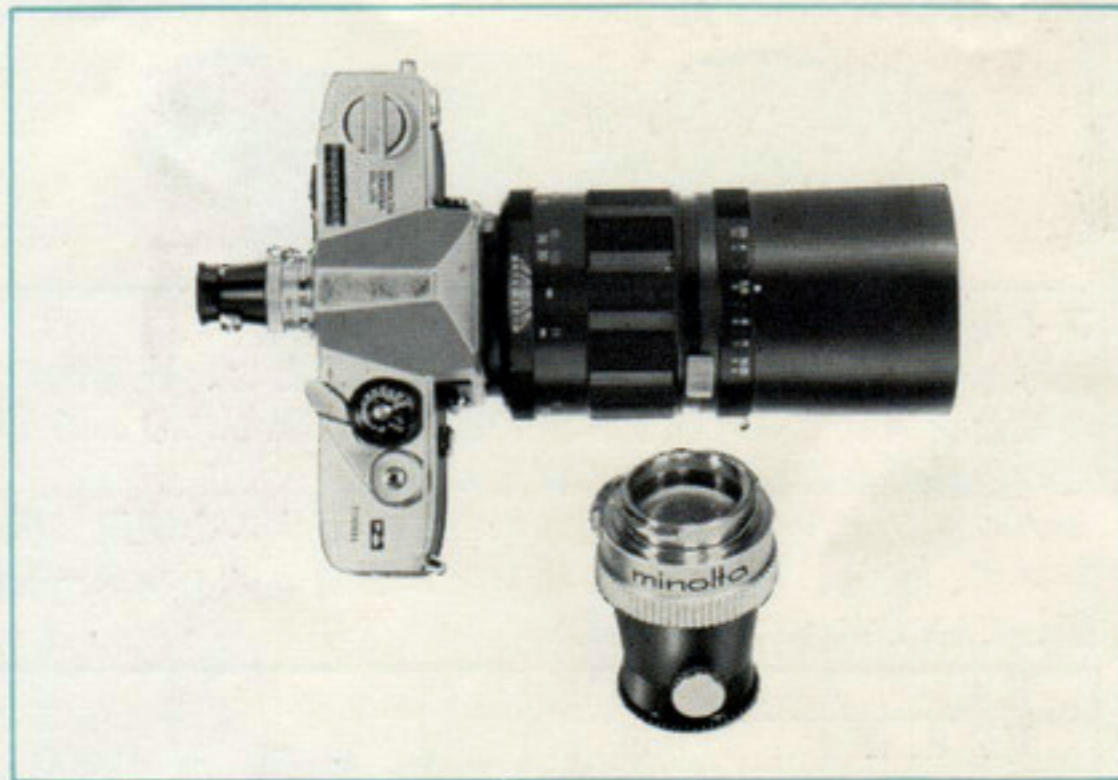


アングルファインダー

二眼レフのような胸高の撮影や、ロー・アングルの撮影横向き、後向きの撮影に便利なほか、複写台を利用する時とか顕微鏡写真の撮影に用いると大変便利です

¥ 4,000





マグニファイヤー

ファインダー接眼部に取りつけて使用すると、より一層精密にピント合わせができますので接写・複写などに用いると便利です

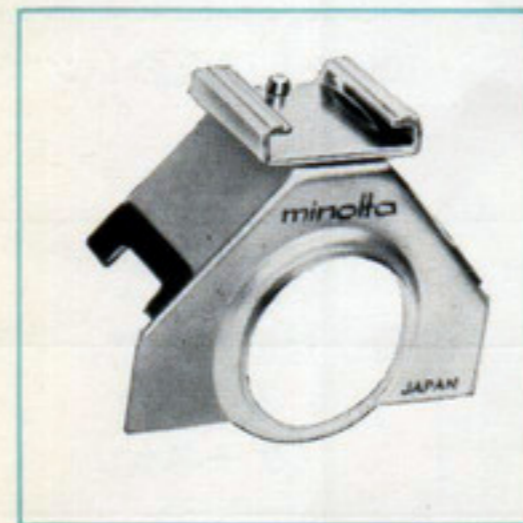
¥ 2,200



視度調整アタッチメント

SRのファインダーは明るく見やすいので従来の35mmカメラに比較すると大変使いよいのですが遠視の方はそれでも不便な場合もあります
このようなとき視度調整レンズをカメラの接眼部に取りつけければより正確に焦点合わせができます

¥ 350



アクセサリークリップ

フラッシュガン・メーターなどを使用したい時、接眼部にアクセサリークリップをとりつけます

¥ 300



レンズフード

レンズに入射する不必要な有害光線を除きスッキリした映像を作るために、各レンズの画角に適合した専用レンズフードは、標準レンズから、広角、望遠まで各種レンズ専用のフードが完備しています。なお100ミリ以上のレンズはフード付で発売しています

F 2.8 35 ミリ	}	兼用	¥ 1500 (ケース付)
F 4 35 ミリ			
F 2 55 ミリ	}	兼用	¥ 900 (ケース付)
F 1.8 55 ミリ			
F 1.4 58 ミリ			



フィルター

被写体の色合いを白黒の写真で再現するとき、被写体の色の度合を肉眼で見た状態に近い濃淡に表現したり、ある特定の色彩のみ強調する時に使用します

ミノルタフィルターは厳選された光学ガラスを使用し標準レンズ、広角、望遠まで各種レンズ専用のフィルターを完備しています(ねじ込み式)

F 4	21 ミリ	}	兼用 ¥ 1,000 (径55ミリ)
F 2.8, F 4	35 ミリ		
F1.8 55ミリ F1.4 58ミリ			
F 3.5	100 ミリ		
F 2.8	135 ミリ		
F 4	100 ミリ		¥ 800 (径 46)
F 2	"		¥ 2,400 (径 62)
F 4	135 ミリ		¥ 800 (径 46)
F 3.5	200 ミリ		¥ 2,700 (径 67)
F 3.5	28 ミリ		¥ 2,700 (径 67)
F 4.5	300 ミリ		¥ 4,000 (径 77)
F 3.5	80~160 ミリ		¥ 4,000 (径 77)
F 8	160~500 ミリ		¥ 4,000 (径 77)
F 5.6	600 ミリ		¥21,000 (径126)



偏光フィルター

通常、光は進行方向に直角な面で、あらゆる方向に振動しますが、偏光フィルターを通った光は一方向にのみ振動します。この性質を利用したのが偏光フィルターで硝子面、水面などの非金属面の反射光や青空からの光を抑制する時使用します

F 1.8, F 1.4	55 ミリ	} ¥ 3, 0 0 0
F 3.5	100 ミリ	
F 2.8	135 ミリ	
F 2.8	35 ミリ	} ¥ 4, 0 0 0
F 4	35 ミリ	

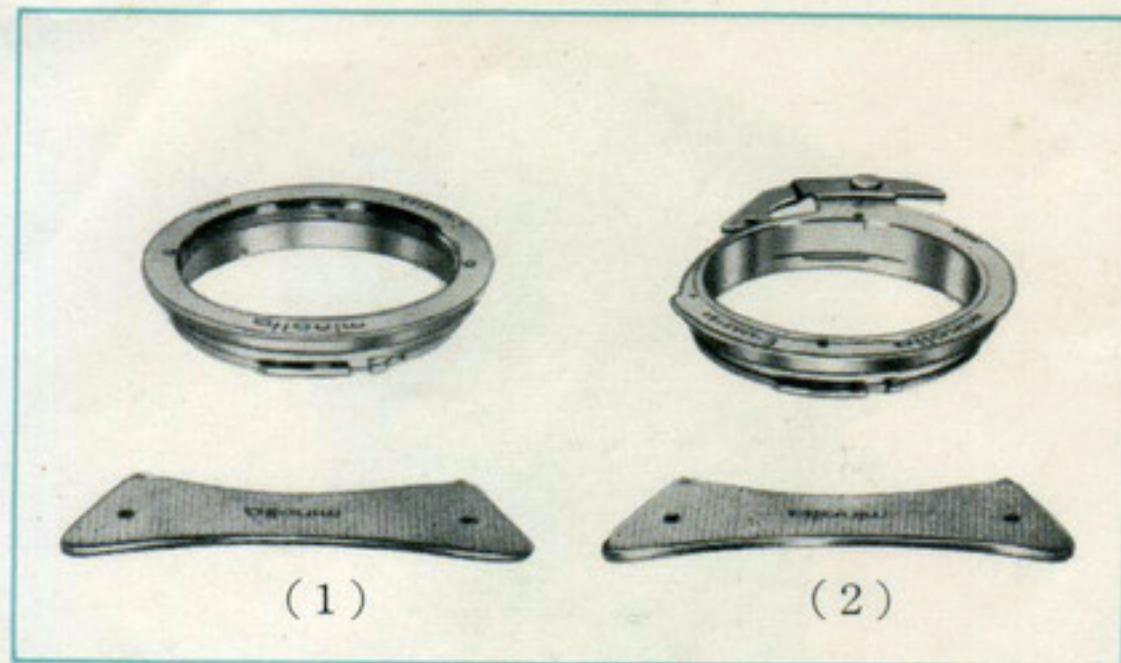


ミノルタデラックス フラッシュガン

夜間や、うす暗い光量不足のところでは撮影する場合にSRのファインダーにアクセサリークリップを取り付けこれにフラッシュガンを固定すると便利です

ミノルタデラックス フラッシュガンは携帯に便利なポケット型で反射笠の回転、各種バルブの使用、簡易露出計算盤など便利な機構を数多くそなえています

¥ 1,400



ライカマウントアダプター (1)

ライカ用のレンズをSRに使用する時のアダプターです
(このアダプターを用いた時は一眼レフの機構上、ライ
カ用レンズを使用する時は近接撮影だけになります。)

¥ 600

エキザクタマウントアダプター (2)

エキザクタ用レンズをSRに使用するためのアダプター
で、エキザクタのレンズが無限遠から近距離まで使えま
す

¥ 1,000



フォトオシロスコープ撮影装置

学術工業生産にブラウン管オシロスコープの使用が増加
しております。SR用オシロスコープ撮影装置を用いま
すと電気波形の忠実な記録により一段と精密な観測およ
び測定が可能です

¥ 29,000

一カ年品質保証

カメラの化粧箱の中に入っている愛用者カードは、所要事項をご記入のうえ、大阪本社業務課宛お送りください。そうすれば、あなたのカメラは当社の台帳に記載され、折返し一カ年保証証書をお送りいたします。修理の時や、今後のあなたとの通信連絡、あるいは万一の盗難の時にも役立ちます

万一故障の場合は直接大阪本社或は当社の各サービスステーションへご相談またはお送りください。一番速くお手許へ届きます

完備したアフターサービス

当社のサービスステーションは右記の所にあります。カメラのご相談、修理など、ミノルタカメラ一切のアフターサービスをいたしております

またミノルタカメラおよび各種付属品のカタログも用意しております。お手紙またはお電話でもご遠慮なくお申し越してください。

(愛用者カードは10日以内にお送り下さい)

サービス・ステーション

- 札幌** 札幌市北2条西3-1 越山ビル内 TEL ㉕ 9681
- 仙台** 仙台市勾当台通8番地熱海ビル TEL ㉓ 8783~4
- 新潟** 新潟市東大通1丁目23番地 マルタケビル
TEL ㉔ 3026~7
- 東京** 東京都中央区銀座東6-7 木挽館新館
TEL (542) 1261 (代表)
- 新宿** 東京都新宿区角筈1丁目1番地
新宿ステーションビル TEL (352) 6552~3
- 名古屋** 名古屋市中区広小路通り4-8 名神ビル3階
TEL ㉒ 8761
- 大阪** 大阪市南区塩町通り4-18 トヨタビル
TEL (271) 8671 (代表)
- 広島** 広島市基町7 第二広電ビル内 TEL ㉑ 0286
- 九州** 福岡市大浜町3-25-2 迎陽ビル TEL ㉒ 3756

ミノルタカメラ



Minolta

ミノルタカメラ株式会社

大阪：大阪市南区塩町通り4の18 (271) 8 6 7 1

東京：東京都中央区銀座東6の7 (542) 1 2 6 1